高知女子大学

Kochi Women's University

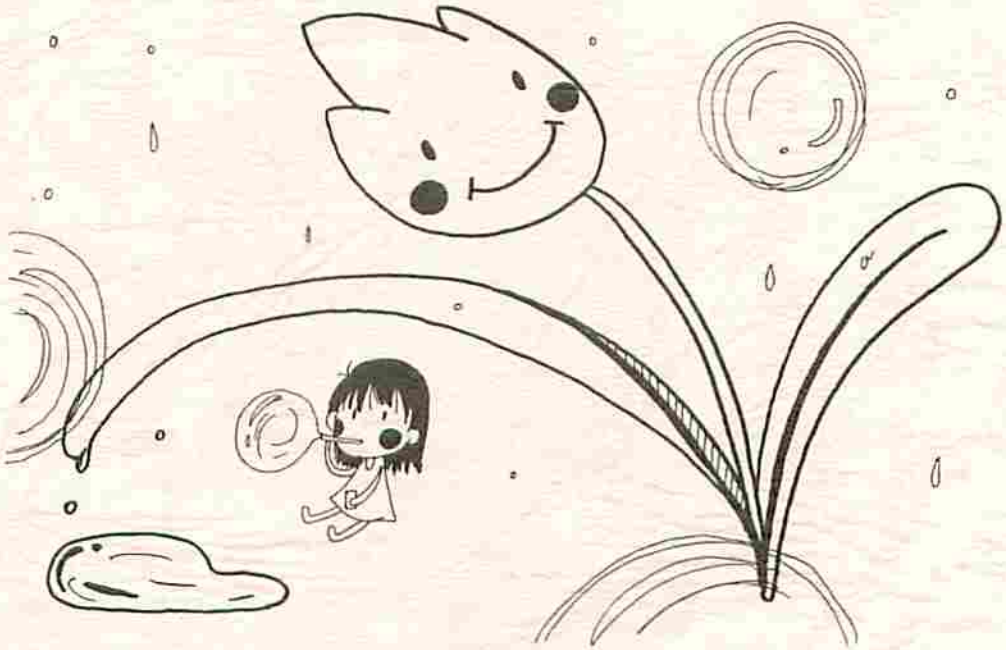
社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第　8　号

2006 年

（2005 年度自己点検評価資料）



高知女子大学社会福祉学部

〒781-0111 高知市池 2751-1

TEL　088-847-8700（代　　表）

FAX　088-847-8672（学部専用）

http://www.kochi-wu.ac.jp/

目　　次

Ⅰ．2005年度を振り返る

1．2005年度社会福祉学部の概括 …… 1
2．2005年度社会福祉学部の主要行事 …… 3
3．2005年度社会福祉学部時間割 …… 4

Ⅱ．社会福祉学部教員の教育活動（教育研究活動年度報告書）

1．栗田　明良 …… 5
2．松田　眞一 …… 7
3．川﨑　育郎 …… 9
4．前山　　智 …… 12
5．住友　雄資 …… 14
6．吉野由美子 …… 16
7．宮上多加子 …… 18
8．長澤紀美子 …… 20
9．玉里恵美子 …… 23
10．西内　　章 …… 25
11．齋藤　征人 …… 27

Ⅲ．社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

1．教務委員会 …… 29
2．入試委員会 …… 30
3．学生委員会 …… 31
4．就職委員会 …… 32
5．広報委員会 …… 34
6．国際交流委員会 …… 36
7．総合情報センター運営委員会 …… 38
8．人権委員会 …… 38
9．地域創成センター …… 39
10．実習委員会 …… 44
11．総務・予算委員会 …… 45

Ⅳ．学生を中心とした活動

1．社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に向けての取り組み …… 47
2．グローカルクラブ …… 49
3．太鼓部 …… 50
4．池手話サークル …… 51
5．２回生初企画学部旅行in松山 …… 52
6．モンゴル学生研修を終えて …… 53
7．スウェーデン・デンマーク・イギリス社会福祉視察 …… 55
8．ＯＤＡ民間モニターに参加して …… 57

Ⅴ．卒業論文題目一覧（2005年度） …… 59

編集後記

I

2005年度を振り返る

2005年度社会福祉学部の概括

学部長　前山　智

1．教員・教育体制

2005年度の社会福祉学部教員数は、柳楽助教授の退職(2004年度末)と斎藤教授の看護学部への異動(4月1日)により2名減の12名で、住友助教授の教授昇任(4月1日)により、教授5名、助教授3名、講師3名、助手1名の構成となる。宮上助教授が8月より高知大学医学部において3ヶ月間国内研修を行った。年度内に長南講師が退職し(12月末)、後任として鈴木講師が採用(1月1日)された。2005年度末には、松田、栗田教授が定年退職となった。

2．学部教育

カリキュラムに関しては、退職者に伴う科目担当者の変更や若干の科目の整理が行われた程度である。現場実習に関しては、35名が社会福祉現場実習を、19名が精神保健福祉援助実習を行い、前者については実習報告会を開催した。卒業研究に関しては、5月に卒論構想発表会、10月に卒論中間報告会、2月に卒論発表会を開催し、43名が卒業論文を提出した。

3．ファカルティ・デベロップメント

授業改善を図るために、社会福祉学部専門科目について、昨年度と同じアンケート方式で、学生による授業評価を後期に実施した。教員が「全国社会福祉教育セミナー」ならびに「社会福祉士養成実習施設実習指導者特別研修会」に参加し、福祉教育に関する研修を受けた。学部長を含む教員が「第11回公立大学協会社会福祉系部会」に出席し、各大学の状況や課題に関して意見交換を行った。

4．入学生と2006年度入学試験

4月に第8期生となる33名(県内出身16名)、3年次編入生2名、私費外国人留学生1名が入学した。2006年度社会福祉学部入学試験では、後期日程入試に利用するセンター試験科目をこれまでの外国語1科目から、外国語または国語から1科目を選択できるように変更した。一般推薦入試は志願・受験者が減少したが、高知県内に限定していない専門推薦入試では県外から初めての志願・受験者が現れ合格した。2005年度に最高倍率となった前期日程入試はその反動のためか志願・受験者数が減少した。後期日程入試は志願者数が増大して志願倍率がこれまでで最高の約53倍となり、全国の国公立大学の中で一番高い志願倍率となった。志願倍率の全国一は2000年度、そして2005年度に引き続き3回目である。

5．卒業生と就職

2006年3月に第5期生43名が卒業した。3月末までに、就職を希望した卒業生の95%については就職先が決まった。福祉分野での求人は例年9月以降に活発になるので夏休み前の内定はこれまではなかったが、第5期生の就職では、一般企業への就職が増え、そのため就職内定者が出る時期が6月に早まった。その反面、高知県内への就職が減少した。就職活動に対する意識を高めるため、例年通り、卒業生や就職が内定した4回生を

講師とした社会福祉学部就職セミナーを春と秋に2回開催した。

6．社会福祉士・精神保健福祉士国家試験と教員免許

第5期生が2006年1月に実施された第18回社会福祉士国家試験と第8回精神保健福祉士国家試験を受験した。学生達が自主的に国家試験直前強化合宿などを行い取り組んだ結果、前者の合格率は69％(全国平均28％)となり惜しくも70%に達しなかったが、後者の合格率は90％(全国平均61％)となり、これまでで最高の合格率を達成した。また、卒業生5名が高校「公民」の教員免許を取得した。

7．地域貢献活動

1998年度より開始した「社会福祉学部リカレント教育講座」を2005年度も開催したが、一般の保健・医療・福祉従事者を対象とした「社会福祉アップ・ツー・デートセミナー」と卒業生を対象とした「卒業生パワーアップセミナー」の2本立てとした。これらのセミナー以外に、厚生労働省の柳楽氏によるリカレント教育講座特別講演「公的年金制度について」も開催した。また、7月末に「第6回高校生のための公開講座」開催し、20名余りの県内高校生が受講した。

8．広報活動

「社会福祉学部報(第7号)」、社会福祉学部紹介パンフレット「こんにちは社会福祉学部です。(2005年度版)」、「2005年度版 社会福祉実習報告書」を発行した。

9．対外行事

「2005年度社会福祉士養成校協会中国四国ブロック実習教育研究協議会」を主催校として、2月に池キャンパスで開催した。例年2～3月に現場実習施設の実習指導者を招いて開催している「実習連絡協議会」は、この実習教育研究協議会で代えることとし2005年度は開催を見送った。

10．学生の活動

5月に開催された「第19回車椅子ツインバスケットボール選手権大会」、「第7回高知県障害者スポーツ大会」に学生ボランティアとして参加した。同じく5月に行われた若草養護学校修学旅行にも介助ボランティアとして学生が同行した。8月には、社会福祉学部学生が主体となるグローカルクラブを活動母体とした「日韓学生よさこいチームJaparean」が第52回よさこい祭りに出演した。3月には、長澤講師のスェーデン・デンマーク・イギリス社会福祉視察調査に学生9名が同行、またモンゴルへの研修生派遣プログラムに学生10名が参加した。

2005年度社会福祉学部の主要行事

4月	1日	(金)	辞令交付式(住友教授)
	6日	(水)	入学式
	7～8日	(木～金)	学生オリエンテーション
	11日	(月)	前期授業開始(～7月15日)
	21日	(木)	創立記念日／新入生バスハイク／新入生歓迎会
	25日	(月)	第1回教授会
5月	11日	(水)	卒論構想発表会No.1／第1回社会福祉学部就職セミナー
	11～13日	(水～金)	若草養護学校修学旅行(学生介助ボランティア)
	13～16日	(金～月)	第19回車椅子ツインバスケットボール選手権大会(学生ボランティア)
	18日	(水)	卒論構想発表会No.2
	23日	(月)	第2回教授会
	29日	(日)	第7回高知県障害者スポーツ大会(学生ボランティア参加)
6月	16日	(木)	精神保健福祉現場実習(～12月24日)
	27日	(月)	第3回教授会
7月	19日	(火)	前期末試験・補講期間(～7月31日)
	20日	(水)	就職ガイダンス(社会福祉施設ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ)／国家試験受験オリエンテーション
	25日	(月)	第4回教授会
	28～29日	(木～金)	第6回高校生のための公開講座
8月	1日	(月)	オープンキャンパス
			宮上助教授国内研修(～10月31日)／社会福祉現場実習(～10月2日)
	8日	(月)	第5回教授会
	10～11日	(水～木)	第52回よさこい祭り(日韓学生よさこいチームJaparean出演)
9月	5日	(月)	第6回教授会
	26日	(月)	第7回教授会
10月	3日	(月)	後期授業開始(～2月3日)
	19日	(水)	卒論中間発表会No.1
	22日	(土)	平成17年度リカレント教育講座 開講
	24日	(月)	第8回教授会
	26日	(水)	卒論中間発表会No.2／第2回社会福祉学部就職セミナー
	29～30日	(土～日)	2005年度全国社会福祉教育セミナー(文教学院大学)
	30日	(日)	第11回公立大学協会社会福祉学系部会(文教学院大学)
11月	12日	(土)	推薦入学試験・編入学試験
	19日	(土)	平成17年度リカレント教育講座特別講演「公的年金制度について」
	28日	(月)	第9回教授会
12月	20日	(火)	第10回教授会 ／ 卒論提出締切 ／ 国家試験受験激励会
	22日	(木)	平成17年度リカレント教育講座 閉講
1月	10～12日	(火～水)	国家試験直前強化合宿(学生自主企画、県立香北青少年の家)
	23日	(月)	第11回教授会
	26日	(木)	社会福祉現場実習報告会
	28～29日	(土～日)	第18回社会福祉士国家試験及び第8回精神保健福祉士国家試験
	29日	(日)	2005年度社会福祉士養成実習指導者研修会(中央福祉学院、～2月1日)
2月	6～17日	(月～金)	後期末試験・補講期間
	13日	(月)	第12回教授会(学部長選挙)
	15日	(水)	卒論発表会 ／ 4回生を送る会
	19日	(日)	2005年度社会福祉士養成校協会中四国ブロック実習教育研究協議会
	25～26日	(土～日)	前期日程入学試験、私費外国人留学生試験
	27日	(月)	第13回教授会
3月	12～13日	(日～月)	後期日程入学試験
	17日	(金)	卒業式
	19日	(日)	長澤講師の海外調査出張(学生9名参加、～3月29日)
	23日	(木)	モンゴルへの研修旅行(学生10名参加、～4月4日)
	31日	(金)	松田・栗田教授の定年退職／国家試験の合格発表

平成17年度 社会福祉学部・社会福祉学科 時間割

H17年度			1時限 8:40～10:10	2時限 10:20～11:50	3時限 12:35～14:05	4時限 14:15～15:45	5時限 15:55～17:25
月	全	前期	英語コミュニケーションⅠ 社101B	英語コミュニケーションⅡ 社101B		E2002 情報社会概論(金子) 大学講義	
		後期	英語コミュニケーションⅠ 社101B E4012 中国語中級Ⅱ(高西) 教109	英語コミュニケーションⅡ 社101B E4010 中国語初級Ⅱ(高西) 教109		E5001 教養セミナー(竹崎)	
	1	前期	英語コミュニケーションⅠ 社101B 中国語中級Ⅰ(高西) 教109	英語コミュニケーションⅡ 社101B	E2003 コンピュータリテラシー(前山) ――	情報社会概論(金子) 大学講義	
		後期	英語コミュニケーションⅠ 社101B 中国語初級Ⅰ(高西) 教109	英語コミュニケーションⅡ 社101B	社会福祉概論Ⅰ(松田) 社102	教養セミナー(竹崎)	
	2	前期	英語コミュニケーションⅠ 社303	英語コミュニケーションⅡ 社303B	社会福祉概論Ⅱ(松田) 社102		高齢者福祉論(山崎) 教218
		後期	英語コミュニケーションⅠ 社303	英語コミュニケーションⅡ 社303B	社会福祉援助技術各論Ⅱ-a(住友) 社101		
	3	前期	カウンセリング論(川崎) 社102		社会福祉援助技術各論Ⅱ-a(住友) 社101		
		後期	カウンセリング演習Ⅰ(川崎) 社102	社会福祉援助技術演習Ⅰ(住友) ――	経済学概論(岩田) 社202	G0010 教育原理(山崎) 教220	
	4	前期	G0010 社会福祉概論Ⅰ(山崎) 教220	教育原理(石橋・末廣・三宅) 社202		教育原理(石橋・末廣・三宅) 社202	G0010 社会福祉概論Ⅰ(山崎) 教220
		後期		児童福祉論(西垣) 社101 心理療法(川崎) 社102			
火	全	前期	土佐の自然と福祉(坂田 他) 教109	女性学入門(長澤) 教314 女性の生活と健康(オムニバス) 教220			
		後期	E5001 教養セミナー(川上)				
	1	前期	土佐の自然と福祉(坂田 他) 教109 教養セミナー(野本) 地域社会学(玉置) 社102	女性学入門(長澤) 教314 女性の生活と健康(オムニバス) 教220 社会福祉学入門(玉置)	保健社会学(玉置) 社102 社会福祉援助技術各論Ⅰ(西内)	医学概論Ⅰ(四宮信也) 社101 医学概論Ⅱ(四宮信也) 社101	社会福祉入門演習Ⅰ(長澤) 社202 社会福祉入門演習Ⅱ(玉置) 社202
		後期	社会福祉援助技術各論Ⅰ-a(西内) 社102 社会福祉史Ⅱ(吉野) 社101	児童福祉論Ⅰ(吉野) 社101 児童福祉論Ⅱ(吉野) 社101	地域福祉論(坂田) 社101	社会福祉現場実習Ⅰ(西内・長澤) 社会福祉現場実習Ⅰ(西内・長澤)	社会福祉基礎演習Ⅰ(吉野) 社102 社会福祉基礎演習Ⅱ(吉野) 社102
	2	前期	精神保健学(山崎) 社202	精神保健福祉援助技術各論(武田) 教育室 社202	精神保健福祉援助実習(住友) ――	社会福祉法制論(住友) 大学講義	
		後期		社会福祉行財政論Ⅱ(栗田) 社102	精神保健福祉援助実習(住友) ――	社会福祉援助技術各論Ⅱ-b(玉置) 社202	社会福祉思想史研究(吉永) 社101
	3	前期	精神保健学(山崎) 社202		精神保健福祉援助実習(住友) ――	社会調査演習Ⅱ(玉置) 教育室	社会福祉原理論(松田) 社101
		後期			精神保健福祉援助実習(住友) ――		
	4	前期					
		後期					
水	全	前期	E4009 中国語初級Ⅰ(高西) 教109 E5001 教養セミナー(西内) 教102	E4011 中国語中級Ⅰ(高西) 教109	E1201 日本国憲法(岩倉) 大学講義	E1102 心の科学(八木) 大学講義 E3004 健康スポーツ科学Ⅰ(清原) 体育館	E3004 健康スポーツ科学Ⅰ(山本) 体育館 E1209 現代の世界(森下利治) 永監堂
		後期					
	1	前期	中国語初級Ⅰ(高西) 教109 教養セミナー(西内) 教102 教養セミナー(竹山) 福祉情報演習(前山) ――	中国語中級Ⅰ(高西) 教109 社会保障論Ⅰ(田中) 社202	日本国憲法(岩倉) 大学講義	心の化学(八木) 大学講義 健康スポーツ科学Ⅰ(清原) 体育館	健康スポーツ科学Ⅰ(山本) 体育館 現代の世界(森下利治) 永監堂
		後期		社会保障論Ⅱ(田中) 社202			
	2	前期	生活デザインの世界(オムニバス) G0001 解釈学概論(教育・宗教学)(石橋・末廣・三宅) 大学講義 子育て援助論(教育・福祉・保健)(オムニバス)	G0002 生涯学習概論(三宅) 教218	G0002 教育原理(石橋) 教218	G0002 教育原理(三宅) 教218	G0002 教育原理(三宅) 教218
		後期	社会福祉援助技術演習Ⅰ(西内) 社会福祉 (住友)	社会福祉援助技術演習Ⅱ(西内) 社101			
	3	前期		法学(岩倉) 大学講義	社会福祉専門演習Ⅰ-a(担当教員)		
		後期	社会福祉援助技術演習Ⅰ(玉置) 社101	社会調査演習Ⅰ(玉置) 教育室	社会福祉専門演習Ⅰ-b(担当教員)		
	4	前期		女性福祉論(長澤) 社102		社会福祉専門演習Ⅱ-a(担当教員)	
		後期		事例研究法(住友) ――		社会福祉専門演習Ⅱ-b(担当教員)	
木	全	前期	英語コミュニケーションⅠ E3004 健康スポーツ科学Ⅰ(山本) テニス E4017 フランス語中級Ⅰ(山口俊) E4019 ドイツ語中級Ⅰ(宮原)	英語コミュニケーションⅡ E4017 ドイツ語初級Ⅰ(持田) E1308 地球の科学(安田) E1305 生命の科学(渡邊) 土佐の自然と暮らし(オムニバス)	E4015 フランス語中級Ⅰ(山口俊) E1103 哲学入門(原崎)	E4013 フランス語初級Ⅰ(山口俊) E1212 現代社会論(玉置) E1103 日本語の表現技術(岩村) E1201 日本国憲法(岩倉)	E1105 音楽音響Ⅰ(住友弘) E1207 福祉の世界(吉野) E1107 絵画を読む(松本)
		後期	英語コミュニケーションⅠ E4016 フランス語中級Ⅱ(山口俊) E1309 生活の中の化学(渡辺) E4020 ドイツ語中級Ⅱ(宮原) E1301 数の世界(谷本)	英語コミュニケーションⅡ E1202 暮らしと経済学(岩田) E1109 文学の世界(オムニバス) E4018 ドイツ語初級Ⅱ(持田) 土佐の経済とまちづくり(坂田)	E4016 フランス語中級Ⅱ(山口俊) E1101 倫理学(原崎) E1211 ユニバーサルデザイン基礎論(松本)	E4014 フランス語初級Ⅱ(山口俊) 土佐の歴史と文化(オムニバス) E1104 音楽療法入門(住友弘) E1208 国際社会と日本(渡辺)	E1106 音楽音響Ⅱ(住友弘) E1213 女性とキャリア(鈴木哲)
	1	前期	健康スポーツ科学Ⅰ(山本) 日本国憲法(岩倉) 英語コミュニケーションⅠF(T)	地球の科学(安田) ドイツ語初級Ⅰ(持田) 生命の科学(渡邊) 土佐の自然と暮らし(オムニバス) 英語コミュニケーションⅡW	哲学入門(原崎)	E4013 フランス語初級Ⅰ(山口俊) E1212 現代社会論(玉置) E1103 日本語の表現技術(岩村) E1201 日本国憲法(岩倉)	E1105 音楽音響Ⅰ(住友弘) E1207 福祉の世界(吉野) E1107 絵画を読む(松本)
		後期	数の世界(谷本) 生活の中の化学(渡辺) 英語コミュニケーションⅠF(T)	暮らしと経済学(岩田) ドイツ語初級Ⅱ(持田) 英語コミュニケーションⅢW	倫理学(原崎) ユニバーサルデザイン基礎論(松本)	E4014 フランス語初級Ⅱ(山口俊) 土佐の歴史と文化(オムニバス) E1104 音楽療法入門(住友弘) E1208 国際社会と日本(渡辺)	E1106 音楽音響Ⅱ(住友弘) E1213 女性とキャリア(鈴木哲) 文学の世界(オムニバス)
	2	前期	英語コミュニケーションⅠF(T) E4017 フランス語中級Ⅰ(山口俊) E4019 ドイツ語中級Ⅰ(宮原)	英語コミュニケーションⅢW	E4015 フランス語中級Ⅰ(山口俊)		
		後期	英語コミュニケーションⅠF(T) E4018 フランス語中級Ⅱ(山口俊) E4020 ドイツ語中級Ⅱ(宮原)	英語コミュニケーションⅢW G0021 健康学入門(石橋) 教218	E4016 フランス語中級Ⅱ(山口俊)		
	3	前期	ケアマネジメント論(西内) 社101	社会福祉行財政論Ⅰ(長澤) 社101		社会福祉現場実習Ⅱ(長澤・西内)	社会福祉現場実習Ⅱ(西内・長澤) 社会福祉現場実習Ⅱ(長澤・西内)
		後期	ケアマネジメント演習(宮上) 社101	健康福祉論Ⅰ(長澤) 社101	社会福祉外国講義Ⅰ(長澤) 社101 民学長陸(未用) 社202	社会福祉現場実習Ⅱ(長澤・西内)	社会福祉現場実習Ⅱ(西内・長澤)
	4	前期	高齢者保健論(宮上) 社102		母子保健論(宮上) 社102		
		後期					
金	全	前期					E1302 生活と統計学(谷本) 社102 E1104 音楽療法入門(住友弘) 大学講義 E1303 物理の考え方(原)
		後期			E2001 情報と社会(前山) 社102 E3005 健康スポーツ科学Ⅱ(宮本) 体育館	E3005 健康スポーツ科学Ⅱ(宮本) 体育館	
	1	前期	介護概論(宮上) 社202	E2003 コンピュータリテラシー(前山) ――	現代社会と社会福祉(長岡) 社102		E1302 生活と統計学(谷本) 社102 E1104 音楽療法入門(住友弘) 大学講義 E1303 物理の考え方(原)
		後期			E2001 情報と社会(前山) 社102 E3005 健康スポーツ科学Ⅱ(宮本) 体育館	E3005 健康スポーツ科学Ⅱ(宮本) 体育館 介護演習Ⅰ(宮上) 社102	
	2	前期		高齢者福祉論Ⅰ(坂田) 社101	障害者福祉論Ⅰ(吉野) 社101	介護演習Ⅱ(宮上) 社102	社会福祉史Ⅰ(吉野) 社101
		後期	臨床心理学Ⅰ(川崎) 社101	高齢者福祉論Ⅱ(坂田) 社101	障害者福祉論Ⅱ(長岡) 社101		社会福祉援助技術各論Ⅰ-b(西内) 社102
	3	前期		精神保健福祉援助演習(住友芳良) 社102	臨床心理学Ⅱ(川崎) 大学講義		
		後期	保健医療論(宮上) 社102	精神保健福祉援助演習(住友芳良) 社102			精神保健福祉援助技術各論(鈴木) 社101
	4	前期	カウンセリング演習Ⅱ(川崎) 社102 公民科教育法Ⅱ(長岡) 教101	精神保健福祉援助演習(住友芳良) 社102			
		後期	公民科教育法Ⅰ(長岡) 社202	精神保健福祉援助演習(住友芳良) 社102			

集中講義

前期	科目名・教員名等	開講月日
	E3001 心とからだの科学(志賀・豊田)	平成 17年 9月 日 ～ 月 日
	E1303 食の科学(外)(小木(年)) 教109	平成 17年9月27日 ～ 9月30日
	G0010 生涯教育論(外)(三宅・川崎・末廣)	平成 17年 月 日 ～ 月 日
	G0006 宗教社会学(石橋)(外)	平成 17年 月 日 ～ 月 日
	精神保健福祉論(住友)	2001年度以降入学対象
	精神科リハビリテーション学(住友)	2001年度以降入学対象
	公的扶助論Ⅱ(川崎) 社101	6月中及び7月9日(土)、16日(土)、23日(土)
	精神医学(井上均) 社101	

後期	科目名・教員名等	開講月日
	公的扶助論Ⅰ(川崎) 社101	11月19日(土)、26日(土)、12月3日(土)、10日(土)、17日(土)
	子育て社会支援論(原田) 社101	12月16日(金)～23日(金)
	精神保健福祉論(住友)	2001年度以降入学対象
	精神科リハビリテーション学(住友)	2001年度以降入学対象
	精神医学(井上均) 社101	

注 ( )内の人名は担当教員。下段を付したものは非常勤講師。前期の上段は前期、下段は後期に開講する科目。

Ⅱ

社会福祉学部教員の教育活動
（教育研究活動年度報告書）

栗田　明良

Akiyoshi KURITA

○研究活動

（１）共著書

『戦後日本の食料・農業･農村（全 17 巻）　第 11 巻 農村社会史』(「第 2 章　高齢化、農村福祉問題」を分担執筆)

（２）共同研究

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究（C）（１）による「介護移住『問題』の展開と農山村における制度定着要件に関する研究」（3 年継続）最終年度の作業として、①前年度末に実施した市町村アンケート「介護保険の運営概況と制度定着要件に関する調査」結果の集計・分析を行う一方、最終報告書のとりまとめに向けて共同研究者 5 名及び研究協力者 5 名との連絡・調整を図りつつ補足資料の収集等を行い、今年度中の執筆完了を目指して努力しているところ。

○教育活動

（１）学部

（専門教育）

１．高齢者福祉論Ⅰ
２．高齢者福祉論Ⅱ
３．地域福祉論
４．社会福祉専門演習Ⅰ－a
５．社会福祉専門演習Ⅰ－b

（２）大学院

（修士課程）

１．高齢者福祉論
２．課題研究演習Ⅰ
３．課題研究演習Ⅱ
４．修士論文個別指導

（博士課程）

５．特別研究演習Ⅰ
６．特別研究演習Ⅱ
７．博士論文個別指導

○委員会活動等

（学部）

１．紀要編集委員会

（大学院）

２．入試委員会
３．地域創成センター

○社会的活動

1．高知女子大学社会福祉学部：リカレント講座Ａコース「社会福祉の基礎～社会福祉政策の動向と課題～ 第６回「介護保険５年間の総括と今後の展望」の講師

2．全国公的扶助研究会：第 37 回公的扶助研究全国セミナー「福祉制度『改革』と自治体再編の動きを住民とともに考えよう」の「特別講座Ⅱ 中山間（過疎）地域における福祉と町づくりを考える　第二講 中山間地域におけるシステムの再構築をめぐって」の講師

3．高知市社会福祉審議会・民生委員審査専門分科会 委員

○評価と課題

1．まず学部の教育活動について、前年度の反省に基づきテキストに依存した専門科目の講義は基本的にやめ、原則として自作のレジメと関連資料を配布、余裕があればパワーポイントの活用も心がけることにした。その結果、講義内容は前年度に比べて充実したものになったのではないかと思っているが、こうした授業を継続していくために事前の準備作業に追われ、その他の業務、とりわけ研究活動にしわ寄せせざるを得なかった。また、初めて使うパワーポイントも、その機能を十分に活用できずに終始した点は、今年度の最重点課題として改善したいと考えている。

　なお、卒論指導については、私にとっても初めてのことであった上に、前年度修了予定の修士３名の論文指導に追われて４月のスタート時に十分な対応ができず、それが最後まで悪影響を及ぼした要因だったように思われる。

2．大学院については、前年度後期からという多分に中途半端な体制で苦戦した経験を踏まえて、修士修了予定者１名の論文指導を中心に、修士課程２名と博士課程１名の研究指導に当たる一方、講義は高齢者福祉論１コマだったこともあって、ほぼ満足できる１年間だったと考えている。

3．委員会活動等の一つ、紀要の編集については前年度のようなトラブルもなく、学部全体の協力を得て概ね期待どおりの成果をあげることができた。

4．社会的活動については、どれ程の貢献ができたのか、甚だ心もとないところであるが、私なりに対応可能なことはやってきたつもりである。

5．最後に研究活動について言えば、未完成状態で年度を越さざるを得なかった科学研究費補助金による成果は何としても冊子に取りまとめて報告する所存ではあるが、この２年間に体験した学内状況から考えて「教育と研究の両立」を図ることは至難の業という気がしてならない。

松田　眞一

Shinichi MATSUDA

○ 研究活動

（1）私の研究テーマは、目下４つ。①社会福祉原理論、②戦後日本社会福祉理論史、③戦後日本社会の生活と文化、④福祉 NPO。

今年度は、①②を中心に研究をすすめた。①②は、その内容において、異なる２系譜の理論間の関係・統合の見通しをもてないと構築しえない。その意味では、①②は、共通の理論問題を内包している。

この理論問題については、先行研究として古川孝順のものがあり（「補充性と固有性」）、これまで、それについては、説明することの難かしい発想の違いを感じてきたが、その理由が、今回理論的にようやく解明できた。

次年度は、この内在批判の視点から、①②の構想に着手する予定である。

（2）昨年度、浦和大学・沈潔教授（元・本学部教授）と、日中 NPO 関係の著書を共編する予定であったが、それについては、とりあえず、氏単独の編で、氏代表の「文部科学省科学研究費助成・日中 NPO 比較研究」の成果を出すことにし、いずれ、より学術的に内容を高めたもので共編することに予定を変更した。

○ 教育活動

（1） 学部

（専門教育）

① 社会福祉概論Ⅰ
② 社会福祉概論Ⅱ
③ 社会福祉原理論
④ 社会福祉専門演習Ⅰ－a
⑤ 社会福祉専門演習Ⅰ－b
⑥ 社会福祉専門演習Ⅱ－a
⑦ 社会福祉専門演習Ⅱ－b
⑧ 卒業論文個別指導（約 10 名）

（2） 大学院

（修士課程）

1．社会福祉言論
2．課題研究Ⅰ
3．課題研究Ⅱ
4．修士論文個別指導（社会人２名）

（博士課程）

1．社会福祉原理論
2．特別研究Ⅰ
3．特別研究Ⅱ
4．特別研究Ⅲ
5．博士論文個別指導（社会人２名）

教育研究活動年度報告書（松田　眞一）

○ 委員会活動

（1） 学部

1．国際交流・人権委員会
2．広報・情報委員会
3．紀要査読委員
4．入試図書選定、採点委員
5．総合情報センター運営委員会（全学）
6．人権委員会（全学）

（2） 大学院

（博士課程）

1．入試出題委員
2．入試採点委員
3．博士論文審査委員会
4．博士論文学位審査委員会

○ 社会的活動

1．日本社会福祉士会・高知県顧問
2．日本社会福祉学会「社会福祉学」査読委員

○ 自己評価と課題

大学院創設メンバーとしての立場上、昨年記した評価・課題（博士課程に限定）を中心に、この１年を総括する。

（1） 評価

① 昨年、「特別研究（Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ）」について次のように課題を述べた。－「特別研究」は、授業形態上は「博士論文指導ゼミ」にあたるが、Ⅰについては、次のように位置づける必要がある。「〈A.小目的〉論文の書き方（独創性、客観性、論理性の展開表現）を、〈B.方法〉一般的にではなく、学生のたてた研究計画書（案）・進展内容に即して指導し、〈C.大目的〉少なくとも１年前期末には博論の見通しを与えること（後期末に研究計画書完成）」。

② しかし、実際にすすめる中で、学生によっては指導に困難がともなうことが明らかになった。

③ しかし、にも拘らず、上記ABCは必要である。では、いかにすべきか。一見、無謀にみえるが、本学博士論文提出必須条件の「査読つき論文が１つあること」にかかわらせて、論文を書かせ、それを材料にABCを個別的に実現せんとした。
すなわち、C（大目的）を限定して、学生に書けそうな博論テーマの部分・側面を中心に意欲と主体性を喚起しつつ原稿を書かせ（C´）、それに即して、ＡＢを個別化・具体化した（A´、B´）。

④ 以上、特別研究について、昨年、抽出した課題を、本年は「博論提出に必要な査読つき論文」を完成させる方向で実践した。これは、「特別研究Ⅰにおける一石二鳥方式」と定式化してよいであろう。
この方式は、博士課程の大学院生であれば、必ず実現可能である。

（2）課題

上記②については、根本的には、入試のあり方にかえる。入試の理念・方法を再考する必要がある。

川崎　育郎

Ikuro KAWASAKI

○研究活動

（１）臨床活動

スクールカウンセラー活用調査研究事業におけるスクールカウンセラー
高知市の中学校でスクールカウンセラーとして臨床活動を行い、生徒、保護者や教員などへのカウンセリングを定期的に実施する。（2005年4月~2006年3月）

高知県内の保育園・幼稚園、小学校・中学校からの相談を受理し定期的に心理治療的援助を実施する。(2005年4月~2006年3月)

子ども相談会　野市町で教育委員会の協力を得、ゼミの学生と共に子ども相談会を行い、保護者からの相談を受理し子どもや保護者にカウンセリングなどを実施する。（2005年４月～2006年３月）

日本自閉症協会高知県支部夏季療育キャンプの講師(2005年8月)

（２）講演や研修会講師

高知市教育研究所　研究会助言者（2005年4月～2006年3月）

高知県障害児保育専門研修会講師
「障害児の特性と保育について」高知県教育センター　高知県主催(5月)

南国市保育障害児部会研修会講師（5月）

平成１７年度 家庭教育相談研修講座（初級コース）講師
「子どもの発達と心理的特徴」高知県教育センター　高知県教育委員会主催（6月）

高知市立中野保育園園内研修会講師　高知市主催（6月）

国公立幼稚園高岡幡多支部研究会
「障害の特性と保育について」須崎市民文化会館国公立幼稚園高岡幡多支部主催（8月）

平成17年度 家庭教育相談研修講座（中級コース）講師
「カウンセリング」高知県教育センター　高知県教育委員会主催（9月）

高知市立介良中学校、介良小学校、介良潮見台小学校教職員研修会講師
「子どもの不適応行動とその支援について」　高知市教育委員会主催（10月）

高知市立種崎西保育園園内研修会講師　高知市主催（10月）

高知市立大津保育園園内研修会講師　高知市主催（11月）

高知市役所庁内研修会「児童虐待予防研修会」及び高知市役所児童虐待予防連絡会議の講師　高知市民図書館視聴覚ホール　高知市主催（2月）

児童の事例検討会の講師　児童養護施設若草園　若草園主催（2月）

「問題行動に対する地域における行動連絡推進事業」地域支援システムづくり連絡協議会　野市町教育委員会主催（2月）

○教育活動

（１）講義

１．「臨床心理学Ⅰ」
２．「臨床心理学Ⅱ」
３．「カウンセリング論」

4．「カウンセリング演習Ⅰ」
5．「カウンセリング演習Ⅱ」
6．「障害児発達学」
7．「心理検査法」
8．「社会福祉専門演習Ⅰa」
9．「社会福祉専門演習Ⅰb」
10．「社会福祉専門演習Ⅱa」
11．「社会福祉専門演習Ⅱb」

臨床心理学Ⅰは選択科目であるが大多数の１回生が受講した。学生の当科目に対する関心は強く熱心に聴講した。事例の話には関心が強く、学生の理解にも役立つようである。臨床心理学Ⅱと障害児発達学は看護学部も受講対象科目であり看護学部と社会福祉学部の多くの学生が受講した。社会福祉学部単独授業と異なり２学部合同の授業であり受講者は多人数であったが学生は熱心に受講した。

学生達は、講義形式の授業も熱心に聴講したが、心理検査法、カウンセリング演習Ⅰ、カウンセリング演習Ⅱのロールプレイやゼミの研究発表、討議などにも強い学習意欲を示した。社会福祉専門演習Ⅰa,b（ゼミ：3回生７名）では文献を用いて児童の理解や援助における基本的なことを学習させた。社会福祉専門演習Ⅱa,b（4回生）では、そのまとめとして卒業研究論文を作成させ、その指導を行った。本年は12名のゼミ生の卒業研究論文の指導を行った。ゼミにおける教育の一環としてゼミ生（3,4回生）を定期的な相談活動に参加させ臨床的経験（養育者との面接や児童とのプレイなど）を与え児童の問題に対する理解を深めさせた。

学生の授業評価結果に対する意見や感想

講義内容や量や講義技術については良好な評価であった。ビデオの利用や具体的な事例の話は学生の理解に役立つようなので次年度も大いに利用したいと思う。

（２）各委員会活動（学部委員会を含む）

1．社会福祉学部広報委員会委員長
2．全学広報委員会委員　社会福祉学部の委員として全学広報委員会に出席しその活動を実施した。
3．入試監査委員会委員
4．就職委員会委員　就職委員として全学就職委員会に出席しその活動を実施した。社会福祉学部における学生の就職支援の活動を実施した。
5．社会福祉学部４回生　学年担当
学年担当も最終学年になり、学生の就職や進学、国家試験の受験などの支援活動を実施した。43名の卒業生の内1名が大学院に進学し38名が就職した。卒業生の内、就職を希望していない学生もいるので、ほとんどの学生の就職が決定した。

○社会的活動

1．学会での活動
日本心理学会専門別議員
日本感情心理学会理事
中国四国心理学会理事

２．その他（各種委員会委員など）

高知県児童福祉審議会委員長
高知県障害者就学指導委員会会長
高知市児童虐待予防ネットワーク会議会長
高知県福祉基金理事
高知県青少年問題協議会委員
高知県スクールカウンセラー

○総合的評価及び今後の課題

教育的活動や社会的活動について概ね計画していた活動ができたと思われる。研究活動の内臨床的活動において、さまざまな不適応な状態にある子どもへの心理治療的援助や障害のある子どもへの発達的援助と、それぞれの家族や保育者・教員へのカウンセリングのニーズが数多くあった。緊急性や必要性の高い内容が多く、研究活動の重点を相談活動におかざるを得ない状況が生じ、他の研究活動に対する時間配分が今後の課題であると思われる。

前山　　智

Satoshi MAEYAMA

○研究活動

内外の研究活動

放射光利用分析技術や半導体材料に関する最新の動向を調査するため、「SPring-8 ワークショップ」と「応用物理学関係連合講演会」に出席した。福祉情報関係の情報収集のため、「電子情報通信学会福祉情報工学研究会」に参加した。

○教育活動

講義

1．「コンピュータリテラシー」（共通教育情報科目）

永国寺キャンパスの第1情報演習室ならびに池キャンパスの情報演習室において、新入生を対象とした8クラス（文化学部4、看護学部2、社会福祉学部2）を担当し、Windows の基本操作とワープロソフト Word ならびに表計算ソフト Excel の操作を中心に実習形式で授業を行った。他大学における情報処理教育の現状と課題に関する情報収集を行い、授業改善に役立てるため情報処理教育研究集会に出席した。

2．「情報と社会」（共通教育情報科目）

池キャンパスにおける後期の講義を担当。

3．「福祉情報演習」（社会福祉学部専門科目）

共通教育科目以外で初めて担当した社会福祉学部専門科目である。コンピュータリテラシーの続編として、Word と Excel 操作のステップアップとプレゼン用ソフト PowerPoint の操作を実習形式で授業を行った。

4．「特別講義Ⅴ（データ解析論）」（大学院人間生活学研究科共通科目）

生活科学部谷本教授と分担して担当し、池キャンパスの情報演習室において実習形式で Excel を用いた基礎的なデータ統計処理の授業を行った。

○委員会活動

1．大学運営会議、評議会

社会福祉学部長として大学運営に参画。

2．社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、大学運営会議や評議会の審議内容や決定事項を報告すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

3．全学学部入試実施委員会、全学就職委員会

社会福祉学部の入試委員を統括し、社会福祉学部の入試方法の改善や円滑な実施に努めた。また、県内の各高校などで開催される進学相談会に出席して、社会福祉学部の PR と志願者の確保に努めた。

4．学部人事委員会

議長として、採用人事4件と昇任人事1件を検討し、教授会に提案した。

○社会活動

1．高知県社会福祉審議会委員長
2．高知保護司選考委員
3．高知県ふくし交流財団生きがい・健康づくり推進協議会委員
4．身体障害者施設アドレス　苦情解決第三者委員

○総合評価と課題

社会福祉学部長の職務と担当授業が中心で、研究には時間が割けていない。

研究面では、社会福祉学部に在籍し且つ共通教育の情報科目を担当しているので、X線分光関係から福祉情報関係の研究テーマへ転換することを以前より考えているのだが、平成 14 年度から社会福祉学部長を務めていることもあり、情報収集や模索段階から進展していない。

教育面では、共通教育の情報科目を担当してきているが、平成 15 年度から高校の新課程において教科「情報」が必修になっており、18 年度からは全員高校で「情報」を学んだ新入生が入学してくる。これらの入学生に大学の共通教育の情報科目で何を学ばせればよいのか、高校の教科「情報」の内容や他大学の状況などを把握して授業を改善していくことが必要である。

住友　雄資

Yuji SUMITOMO

○研究活動

①学術論文

なし

②著書

住友雄資（2005）「精神保健福祉論」『AERA Mook 福祉士になる』朝日新聞社，116-117.

③学会発表

住友雄資（2005）「高知女子大学における精神保健福祉教育の現状と課題」日本社会福祉教育学校連盟・日本社会福祉士養成校協会共催『2005年度社会福祉教育セミナー』.

④外部資金獲得

文部科学省科学研究費・基盤研究（C），「精神障害者の地域生活支援を実現するための住居確保に関する実証的研究」280万円（2004年10月～2007年３月）

○教育活動の概況

［学部］

・「社会福祉援助技術総論Ⅱ」
・「社会福祉援助技術各論Ⅱ－ａ」
・「社会福祉援助技術演習Ⅲ」
・「事例研究法」
・「精神保健福祉援助実習」
・「社会福祉法制論」
・「社会福祉専門演習Ⅰ－ａ」
・「社会福祉専門演習Ⅰ－ｂ」
・「社会福祉専門演習Ⅱ－ａ」
・「社会福祉専門演習Ⅱ－ｂ」

［大学院］（人間生活学研究科　修士課程）

・ソーシャルワーク論（オムニバス）
・人間生活福祉政策論（オムニバス）
・論文指導（副査：１名）

［大学院］（健康生活科学研究科　博士後期課程）

・精神障害者福祉論
・論文指導（副査：２名）

○委員会活動

［学部］

・実習委員長
・広報委員
・入試委員

［全学］

・総合情報センター情報処理部会員

［大学院］（人間生活学研究科）

・学務委員（社会福祉領域）

［大学院］（健康生活科学研究科　博士後期課程）

・学務委員（社会福祉学領域）

○社会的活動

・学会など

日本社会福祉学会　査読委員（2006年１月～）
日本地域福祉学会　理事（～2005年６月まで）
日本精神障害者リハビリテーション学会　理事兼機関誌編集委員
日本社会福祉教育学校連盟　評議員兼企画委員

・講演など

高知県看護協会　講師（6月22日）

第54回四国老人福祉施設関係者研究大会　第９研究部会助言（7月20日）

全国社会福祉協議会　地域福祉権利擁護事業専門員実践力強化研修会　講師（7月29日，9月6日）

第30回中国・四国地区療護施設職員研修大会　分科会助言（9月29日）

高知県社会福祉協議会　介護福祉士養成講座　講師（9月30日）　など

○総合評価と課題

私個人としては，年度後半から大学院博士後期課程を担当することとなった．２名の博士後期課程担当教授が年度末に定年退職されることで，多くの業務が矢継ぎ早に移行され，多忙を極めたというのが正直な気持ちである．学部で担当していた科目の多くは他教員に担当を変更してもらい，私自身は学部から大学院に重点をシフトすることとなった．来年度からは，修士・博士後期課程の院生を主・副指導教員として担当し，よい修士・博士論文が執筆できるよう指導していきたいと考えている．もちろんよい教育のためにも，忙しいということを理由にせず，自分自身の研究活動もきちんとこなしていきたい．

学部全体としては，４名の教員が退職したこともあり（１名は年度内に補充），人事に追われた一年間であった．来年度には新しく仲間に加わる教員３名とともに，学部の教育・研究活動の基盤を再構築していくことが問われる．教員も平均年齢が低くなり，若手主体の教員組織になったことで，フットワークを軽くして，活動的な教員組織になっていくのでないかと期待している．

吉野　由美子

Yumiko YOSHINO

○研究活動

(1) 学術論文

本年度は、なし

(2) 学会発表

１．「高知県に視覚障害者リハビリテーションを定着させるための試みーニーズをいかに掘り起こして来たかを中心にー」　第２６回高知県リハビリテーション研究大会〈高知県立福祉交流プラザ〉２００５年５月

２．「日本における視覚障害者（児）の状況と当事者組織の活動」第１４回日本ベトナム障害児教育・福祉友好セミナー分科会〈ベトナムハノイ師範大学〉２００５年８月

３．「高知県の実情に適した連帯づくりを目指して」第１４回視覚障害リハビリテーション研究発表大会・第６回日本ロービジョン学会合同大会（神戸）　２００５年９月

４．「高知県における視覚障害者リハビリテーションシステム確立を目指して」仙台ロービジョン研究会（仙台市）２００５年１０月

５．「高知県立盲学校におけるサマースクールの取り組み（１）」第４７回弱視教育研究全国大会（静岡市）２００６年１月

○教育活動

講義

社会福祉学部の専門科目では、児童福祉論Ⅰ・障害者福祉論１・社会福祉史１を２年生前期で、児童福祉論Ⅱ、社会福祉史Ⅱを２年生後期で講義した。又、共通教育科目「福祉の世界」を前期５コマ、「土佐の健康と福祉」を前期２コマ担当した。

演習科目と実習

２年生担当として社会福祉基礎演習を行った。

○各委員会活動（学部委員会を含む）

１．全学部的には、地域創生センター委員として、ニュースレター作成や、大学の生涯学習教育のあり方について検討を行った。

２．社会福祉学部においては、学部教務委員・地域共生委員を勤めた。

○社会的活動

①講習会・講演会活動

１．２００５年７月１３日　「障害者として医療にかかって思うこと」高知医療センター定例研修会での講演

２．２００５年７月２５月　「視覚障害児を育てるポイントを教えます」平成１７年度香川県立盲学校主催養育懇談会での講義〈高松市〉

３．２００５年７月２５日　「視覚障害リハビリテーションの観点から今盲学校に期待されていること」香川県立盲学校平成１７年度全校研修会での講義〈高松市〉

４．２００５年１１月２日　「私が今の私になった訳－障害者観の変革を目指して」高知県立若草養護学校平成１７年度校内人権教育研修会での講演

５．２００６年２月１３日　「障害者と共に働くためにみなさんに是非知っておいて欲しいこと－私の体験を通して－」高知県国民健康保険団体連合会職員労働組合学習会での講演〈高知市〉

６．２００６年３月８日　「特別支援教育の下での盲学校の役割－確かな地域連帯づくりを目指して－」徳島県立盲学校地域交流研修会での講演（徳島市）

②依頼された審議会など

１．高知市障害者計画推進協議会委員を委嘱　平成１２年３月２５日
委員長に選任される

２．高知県障害者施策推進協議会委員を委嘱される　平成１２年５月

３．高知県医療審議会委員命ずる　平成１２年８月１日

４．社会福祉法第８３条に規定する運営適正化委員会委員委嘱　平成１２年１１月１日から

５．「県立身体障害者リハビリテーションセンター及び県立小高坂厚生センターの今後のあり方を考える会」委員を委嘱される　平成１６年４月から平成１７年１０月

本年度は、「運営適正化委員会」と「今後のあり方を考える会」に大きな比重をおき、活動を行って来た。

③視覚障害リハビリに関する活動

１．昨年に引き続き、療育福祉センターの依頼を受け、視覚障害者向け巡回相談に相談員として出向いた〈５回〉

２．２００６年６月に行われた、第４回高知福祉機器展（バリアフリーフェスティバル）という、総合福祉機器展に、視覚・聴覚ブースをつくり、ブースリーダーとして、福祉やリハビリテーションの専門家にも、なじみの薄い、視覚・聴覚に関連する機器を集め展示し、啓発活動を行った。

④職員提案事業採択に伴う活動

平成１６年度に提出した事業名「盲学校における視覚障害と他の障害を併せ有する児童・家族・援助者を対象としたサマーキャンプ（サマースクール）の実施」が採択され、３０万円の予算が取れたので、高知県立盲学校と協力し、外部講師を招いて、「サマースクール」の進め方や、このような試みの重要性について２回の講座を開いたり、８月に実施された２回のサマースクールの開催をサポートした。

○国際交流

高知女子大学学長特別研究費の国際交流部門に応募し、採択されたので、ベトナムの障害児教育・福祉関係者との交流をはかるため、２００５年８月に２週間ほどベトナムを訪問した。今回は、交流の糸口をつかんだだけであるが、継続して行きたいと考えている。

○総合評価及び今後の課題

平成１７年度も引き続き、私のライフワークである「視覚障害リハビリテーション」に関する実践活動、ベトナムの障害者福祉・教育関係者との交流活動など、地域貢献活動については、大きな成果があったが、昨年に引き続き、実践活動、福祉機器展での企画、コーディネートに大きくエネルギーを使ったため、私自身の研究活動は、停滞気味であった。来年度は、自己の研究活動に、もう少し精力的に取り組む必要があると考える。

宮上　多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（1） 論文・報告書

宮上多加子「家族の介護実践力に関する研究－成人の特徴に基づいた生涯学習支援の検討－」高知女子大学紀要社会福祉学部編，第55巻，pp.1-12，2006年

『歯科における定期的管理（メインテナンス）の有用性－リコールシステムを用いて－』（平成16－17年度学長特別枠研究助成事業報告書），2006年

（2） 学会発表

宮上多加子：家族の認知症介護実践力の向上を目指す生涯学習支援，第6回日本認知症ケア学会大会（島根），2005年10月

宮上多加子：家族の認知症介護実践力に関する研究－介護体験に基づいた変化プロセスの分析－，日本社会福祉学会第53回大会（宮城），2005年10月

（3） 研究資金の導入

文部科学省科学研究費基盤研究(C)「痴呆介護実践力向上に関する研究－家族介護者の生涯学習体験に基づく分析－」（平成16～平成17年度）

○教育活動

（1） 講義の概要および評価

「介護概論」「介護演習Ⅰ」「介護演習Ⅱ」

「介護演習Ⅰ」では、例年のように池キャンパス内設備を使った車椅子1日体験や学外施設研修を取り入れた。「介護演習Ⅱ」では，視聴覚教材を用いた授業や、少人数グループでの演習形式を用いた。

「保健福祉論」「高齢者保健論」「母子保健論」

「高齢者保健論」は、時間割の関係で例年よりも履修希望者が少なかった。「母子保健論」については、卒論のテーマや就職希望分野とも関係して、学生の学習ニーズは高い。カリキュラム上は、「保健福祉論」を履修した後に、「高齢者保健論」や「母子保健論」を履修するほうが望ましいが、時間割編成上の関係から、原則どおりの履修が難しくなっている。

「ケアマネジメント演習」

平成17年度から担当した科目であり、本年度受講生は15名であった。演習形式であるので、授業に先立ち、「ケアマネジメント論」の履修内容についての到達度自己評価および授業内容の希望を聞いた上で、講義内容を調整した。

「社会福祉専門演習Ⅰ－a・b」「社会福祉専門演習Ⅱ－a・b」

「社会福祉専門演習Ⅰ－a・b」（3回生）履修者2人とともに、岡山県笠岡市のきのこ老人保健施設を見学した。

「社会福祉専門演習Ⅱ－a・b」（4回生）の履修者は8人であった。卒業論文のテーマは、高齢者を共通キーワードとして、「介護予防」「認知症介護」「死」「災害」「異世代交流」「虐待」「就業」などであり、その他に社会福祉士の卒後教育を取り上げた

ものもあった。なお、平成17年度社会福祉専門演習の実施内容の詳細および卒業論文については、本年度もゼミ記録として冊子にまとめた。

「保育学（実習および家庭看護を含む）」

生活科学部にて開講されている講義であり、小児保健および家庭看護に関する部分を分担し担当した。

「女性の生活と健康」（オムニバス）

「介護福祉論」（大学院人間生活学研究科　オムニバス）

（2）各委員会活動

1．入試監査委員会（全学委員）

2．総務・予算委員会（学部委員長）

3．教務委員会（学部委員）

○社会的活動

高知県地域教育力再生プラン事業運営協議会（委員長）

日本地域福祉学会地方部会委員

公開講座等

① 高校生夏期講座講師(2004年7月)

② 高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座卒業生対象講座担当（2005年10月～2006年2月）

○総合評価と今後の課題

今年度の特記事項として、平成17年8月1日から10月31日まで、高知大学医学部神経精神病態医学教室で、公立大学研修員として3ヶ月間研修させていただいたことがあげられる。当初希望していた認知症の研究研修センターが、社会福祉現場のスタッフ対象ということで、急遽研修先を変更するという経緯はあったが、認知症の臨床（病院外来）を見聞できたことや、グループホームという小規模のケア施設で現場研修ができたことで、結果的には有意義な期間を過ごすことができた。さらに、高知大医学部附属病院の外来通院患者の家族に対する面接調査も、井上新平教授や上村直人医師のご尽力で可能となった。この過程で、高知大学医学部倫理審査委員会へ申請書を提出し、研究内容について委員への説明を行ったことも良い経験であった。今後は、これらの研修で得た資料を基づいて、研究テーマである「家族の認知症介護実践力」についての概念を、さらに精緻化していきたいと考えている。

また、本年度から大学院の講義「介護福祉論」を担当した。社会人対象、2日間の集中講義ということで、学部の講義とは違った雰囲気があり、院生のニーズに100%答えることができたとは言い難いが、今年度の反省を踏まえて、大学院教育にも積極的に関わっていきたい。

長澤　紀美子

Kimiko NAGASAWA

○ 研究活動

（1） 論文

長澤紀美子「イギリス高齢者ケアにおける医療と福祉の連携・協働政策の展開」高知女子大学紀要社会福祉学部編、第55巻、pp.13-29、2006年3月

（2） 学会発表

長澤紀美子「イギリス長期ケアにおける医療と社会的ケアの供給の分断に対する戦略の検討」第43回日本病院管理学会学術総会「ケアの需給と供給分科会」（ホテルオークラ東京）（2005年10月27日）

（3） 報告書

「平成17年度長寿科学総合研究事業（厚生労働科学研究費補助金）H16-長寿-029『介護老人保健施設及び介護療養型医療施設における経営実態及びマネジメント実施状況に関する研究』総括研究報告書」（主任研究者・小山秀夫）分担部分：「第4章：イギリスにおける高齢者ケア政策の動向と課題」pp.113-135、2006年3月

（4） 受託研究

平成17年度文部科学省科学研究費補助金（萌芽研究・№16653047）「ステイクホルダー参加型の保健医療福祉共同体のガバナンスに関する研究―英国ケア・トラスト」

○ 教育活動

・「社会福祉行財政論Ⅰ」

社会福祉行財政に関する基礎的事項の学習とともに、児童・高齢者・障害者福祉等各個別分野の政策動向について経時的、横断的に理解できるよう、社会福祉士国家試験問題の活用や、年表・ワークシート等の教材を作成し、知識の定着を図った。また、期末課題として国家試験問題を受講生に作成させ、個別法のみでなく関連通知やガイドラインまで包括的に把握するよう指導した。

・「国際福祉論Ⅰ」

先進国の社会福祉、医療・介護の規模や制度の比較、その中での日本の位置づけに関して理解することを狙いとした。近年の4ヶ国の介護制度改革を取り上げ、制度の解説だけでなく、各国の歴史的文化的社会的コンテクストと改革の示す価値理念についても言及し、比較の視点を涵養するように努めた。

・「女性福祉論」

女性固有の問題の理解と援助の視点の養成を狙いとした。具体的には、女性の生活課題（ドメスティック・バイオレンス、女性と貧困、育児・介護休業等）について、具体的な事例や統計的データを示しながら、実態を解説しつつ、制度的対応かつソーシャルワーカーとしての現場での対応をイメージできるよう工夫した。

・「社会福祉現場実習Ⅰ」「社会福祉現場実習Ⅱ・Ⅲ」

・「社会福祉外書講読Ⅰ」

「ノーマライゼイション」に関する文献を講読し、昨年度に引き続き、抄訳と用語を小冊子「英語で読む社会福祉」第３号にとりまとめた。

・「社会福祉入門演習Ⅰ・Ⅱ」
前期は教員インタビューやレポートの書き方を中心に、後期は「福祉のしごとを考える」というテーマで、福祉職の多様な現場を取材・報告した。

・「社会福祉専門演習Ⅰ－ａ・Ⅰ－ｂ」
・「社会福祉専門演習Ⅱ－ａ・Ⅱ－ｂ」
４回生の卒業研究のテーマは以下のとおりである。

・網本早希「特別養護老人ホームに入所している高齢者と子どもとの日常的な交流に関する考察」
・上元麻希「福祉リクリエーション・ワーカーの援助内容に関する一考察－利用者主体の援助方法と望ましい福祉リクリエーション・ワーカーの条件」
・北村碧「妊娠から育児期にある女性が働きやすい職場環境・条件に関する一考察－児童養護施設で働く女性への出産・育児に関する聞き取り調査から」
・友美里「中山間地域における老老介護－サービス利用に消極的な老老介護世帯に対する支援のあり方」
・中川美穂「特別養護老人ホームにおいてターミナルケアを積極的に進めていくための方策－ターミナルケア実施施設の課題への対応から」
・中根千恵「ジョブコーチによるフェイディング決定要素に関する一考察－知的障害者の一般就労への支援において」
・橋塚容子「介護セルフヘルプグループの機能に関する一考察－家族介護者のエンパワメントに向けて」
・福永朋子「高知県における里親への支援の内容とその課題－里親制度に対する行政・福祉施設と里親との期待のギャップを通して」
・山本愛子「明治から大正中期にかけての母性保護論争の起こりとその経緯－三人の論者と論旨を中心に－」

・「女性の生活と健康」（オムニバス）
・大学院人間生活学研究科「国際福祉政策論」
非常勤講師（国立保健医療科学院経営科学部長　小山秀夫氏）ともに、日本・イギリス・ドイツの介護政策とニュー・パブリック・マネジメントについて講義した。

○ 委員会活動
・全学：学部入試実施委員、入試委員
・学部：入試委員長、実習委員（(社) 日本社会福祉士養成校協会担当)、総務委員、予算委員

○ 社会的活動
（１）委員等
・高知県社会福祉協議会「指定認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）外部評価審査委員会」委員長（～平成 18 年度）
・高知県保健福祉課「福祉サービス第三者評価推進委員会」オブザーバー

（２）公開講座等
・高校生公開講座「国際女性福祉：途上国女性のライフスタイルと教育」(2005 年 7 月 29 日)

- 高知女子大学リカレント講座「介護サービス情報の公表と第三者評価」(2005 年 12 月 3 日.)
- 高知県宅老所・グループホーム連絡会　講師「欧米諸国の高齢者ケア政策と第三者評価」(2005 年 11 月 27 日)
- （社）呆け老人をかかえる家族の会高知県支部　講師「高齢者ケアの第三者評価」(2006 年 3 月 11 日)
- 名古屋大学医学部医学系研究科 Young Leaders' Program 講師"The Trend of NHS in England (1990-2005)" (2006 年 2 月 21 日)

○ 今後の課題

今年度の教育・学内活動を通して、特に印象に残っている点を以下に挙げる。

①ゼミ 4 回生の卒論指導

9 名の卒論指導を担当し、テーマは高齢者・児童・障害者・女性と多様であった。進捗状況も多様であり、最初は個別指導の時間配分や調整に苦心した。しかし、おかげで学生の選択したテーマに関する知識を学べただけでなく、学生の個性を生かした個別指導の難しさ、集団での学び合いの活用など、新しい教育面での課題を見つけることができた。引き続き、この点は努力したい。

②（社）日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロック実習教育研究協議会（2006 年 2 月 18～19 日）

中国四国ブロック運営委員かつ会場校の社養協担当者として、ブロック委員長川上富雄先生（川崎医療福祉大学）や本学実習委員の先生方とともに、企画・運営を担当した。学部の先生方や 2 回生を中心とした学生のアルバイトの温かいご協力によって、無事終えることができた。改めて感謝申し上げたい。

③海外研修

2 回生を中心に 3 回生・院生を含めた計 11 名で、3 月後半に、デンマーク・スウェーデン・イギリス 11 日間の視察研修を行った。学生を連れて海外へ出ることは初めてであったため、安全や健康面で問題が起きないようにということが、一番の懸念だった。結果として何事もなく、「いつも走っている」忙しい旅であったが、多くの関係者のおかげで、各国で様々な施設やサービスの視察ができた。学生は適応力や社会性等、各自の持ち味を発揮してくれ、それらの力に時に助けられた。この研修によって、学生が見聞を広め、異なる習慣や文化における福祉について考える一助になれば嬉しい。

その他、今年度から担当した大学院については講義のみであったが、今後は講義内容の充実とともに、個別指導に関わる際には、基礎的な研究手順および研究目的・テーマに応じた研究方法の指導に努めたい。

玉里　恵美子

Emiko TAMAZATO

○研究活動

（1）論文（単著）

1．玉里恵美子「よさこいの持つ福祉力と教育力」『ふまにすむす』第 16 号、2006 年 3 月。

（2）書物（執筆メンバー）

1．高知の女性の生活史作成実行委員会『高知の女性の生活史―ひとくちに話せる人生じゃあない―』こうち男女共同参画社会づくり財団、2005 年 12 月。

2．日本仏教社会福祉学会編『仏教社会福祉辞典』、法蔵館、2006 年 3 月。

（3）報告書（分担執筆）

1．文部省科学研究費「中山間地域における基礎コミュニティ・自治機能の実態と在り方」（代表　平岡和久）、2006 年 3 月。

2．厚生労働省科学研究費「介護予防対策の費用対効果に着目した経済的評価に関する研究」（代表　水谷利亮）、2006 年 3 月。

3．高知県地域福祉活動推進委員会「高知県小地域福祉活動事例集」、2006 年 3 月。

（4）その他（新聞掲載エッセイ）

1．「高知に生きた女性たち」（月曜随想）高知新聞 2005 年 12 月 5 日。

2．「中山間地域の漢邦薬」（ズバリ直言）農業共済新聞 2006 年 3 月 20 日。

（5）共同研究

1．文部省科学研究費（基盤研究 C）「中山間地域における基礎コミュニティ・自治機能の実態と在り方」（代表　高知大学人文学部　平岡和久）

2．厚生労働省科学研費（政策課学推進事業）「介護予防対策の費用対効果に着目した経済的評価に関する研究－過疎地域町村における介護予防対策事業の経済的・社会的効果と評価指標の考察－」（代表　高知短期大学　水谷利亮）

（6）その他の研究費

平成 17 年年度高知女子大学地域貢献研究費（学長特枠）「室戸市地域福祉計画策定に関する研究」

（7）講演、セミナー等の記録

1．高知県民生委員児童委員協議会連合会：「第 5 回高知県民生委員児童委員大会」シンポジウムコーディネーター、2005 年 5 月 18 日。

2．室戸市社会福祉事務所：「地域の知恵袋会議Ⅱ」2005 年 9 月 9 日他、「地域の知恵袋サミットⅡ」2006 年 3 月 23 日。

○教育活動

（1）学内担当講義

家族社会学　　地域社会学

社会科学入門　　社会福祉援助技術各論Ⅱb

社会福祉援助技術演習Ⅳ　　社会調査演習Ⅰ・Ⅱ

社会福祉専門演習（ゼミ）Ⅰa・Ⅰb・Ⅱa・Ⅱb　　現代社会論（共通）

オムニバス：福祉の世界（共通）　　オムニバス：土佐の健康と福祉（共通）

（２）担当講義以外の学内講師

１．JICA 高知女子大学プログラム（JICA Kochi Women's University Group Training Program 2005）“Women and Changes in Localities and Families”、“Empowerment of Citizen-Participation-Type Festival－Power of Welfare and Education Which “Yosakoi” Has –”、2005 年 8 月 9 日。

２．高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座「地域福祉（活動）計画策定のすすめ」、2005 年 11 月 26 日。

（３）卒業論文指導

谷峰穂「田内千鶴子と木浦共生園に対する高知県博愛園の児童養護実践の影響」

（４）学内学生活動支援

グローカルクラブ（日韓学生よさこいチーム Japarean）顧問

（５）学外非常勤講師

高知大学教育学部「地域社会学概論（社会学各論）」

高知大学共通教育「社会学を学ぶ」

○委員会活動

（１）学内委員会活動

１．全学国際交流委員会

２．全学入試実施委員会、学部入試委員会

（２）学外委員会活動

１．国土交通省四国地方整備局：四国 21 世紀の道ビジョン推進懇談会

２．高知県健康福祉部高齢者福祉課：高知県高齢者保健福祉推進委員会

３．高知県健康福祉部高齢者福祉課：高知県立ふくし交流プラザ指定管理者審査委員会

４．高知県農林水産部：高知県農業経営・生産対策等に関する第三者委員会

５．高知県社会福祉協議会民生・地域課：高知県地域福祉活動推進委員会（委員長）

６．高知県社会福祉協議会：評議員会

７．高知県社会福祉協議会：情報公開審査会並びに個人情報保護審査会

８．高知県社会福祉協議会：高知県社会福祉協議会苦情解決に関する規定の第三者委員会

９．高知市高知駅周辺都市整備課：高知駅周辺拠点街区まちづくりアイディア募集評価委員会

10．こうち男女共同参画社会づくり財団：高知の女性の生活史作成実行委員会

11．NPO 高知市民会議＆四国銀行：高知市まちづくりファンド運営委員会

12．室戸市：地域福祉計画策定アドバイザー

13．大豊町：大豊町行政文書開示審査会委員

14．大豊町：大豊町行政諮問会議

15．大豊町：大豊町高齢者保健福祉推進委員会

16．高知田内千鶴子愛の会

西内　　章

Akira NISHIUCHI

○研究活動

著書

西内章（2005）「生活支援へのエコシステム構想　4エコシステム構想と支援方法の展開　生活支援の方法」他　太田義弘・中村佐織・石倉宏和編『ソーシャルワークと生活支援方法のトレーニング』中央法規出版,40-48.

西内章（2005）「ソーシャルワーク方法論」硯川眞旬編『社会福祉の課題と研究動向』中央法規出版,91-97.

○教育活動

（1）講義

①「教養セミナー」
②「社会福祉援助技術総論Ⅰ」
③「社会福祉援助技術各論Ⅰ—a」
④「社会福祉援助技術各論Ⅰ—b」
⑤「社会福祉援助技術演習Ⅰ」
⑥「社会福祉援助技術演習Ⅱ」
⑦「社会福祉現場実習Ⅰ」「社会福祉現場実習Ⅱ」「社会福祉現場実習Ⅲ」
⑧「ケアマネジメント論」
⑨「社会福祉専門演習Ⅰ－a」「社会福祉専門演習Ⅰ－b」
⑩「社会福祉専門演習Ⅰ－a」「社会福祉専門演習Ⅰ－b」

○委員会活動

1．教務委員長
2．学部3回生学年担当
3．学部実習委員

○社会的活動

1.高知県社会福祉士会理事
2.援護寮まち、地域生活支援センターこうち苦情解決第三者委員
3.高知女子大学社会福祉学部リカレント教育講座講師

○総合評価及び今後の課題

1．授業について

昨年度との変更点は、新たに「教養セミナー」と「社会福祉援助技術総論Ⅰ」を担当することになったことである。講義科目では、学生にわかりやすいようにビデオや資料を工夫するように心がけた。演習科目では、昨年度以上に学生自身が体験的にスキルを学ぶことができるように、ふりかえりの時間を多くとり、自己評価やグループ評価の内容に重点を置いた。今後も個々の授業内容、教材を見直していく。

２．学部業務について

教務については、委員会活動のページでもふれているが、共通教育、社会福祉学部専門教育科目、教職科目の各授業科目の授業内容と学生にとって学びやすいようなカリキュラムづくりと時間割配置を検討していかなければならない。

３．研究活動について

年度当初の目標は、教育活動、教務業務、研究活動を効率的に進めていくことだった。しかし、一年間を振り返ってみると、結果的に研究に配分する時間を十分に確保することができなかった。

次年度への課題は、教育活動や学内業務と並行して、研究活動の時間をつくり、それぞれ３つの成果を積みあげることである。

齋藤　征人

Masato SAITO

○研究活動

(1) 著書

齋藤征人「個人やグループで行う研修」小田豊，押谷由夫編著『保育と道徳～道徳性の芽生えをいかにはぐくむか～』保育出版社，2006年2月（予定），頁数未定.

(2) その他

学会発表

齋藤征人「社会福祉学における『臨床』概念に関する考察」日本社会福祉学会第53回全国大会研究発表.

○教育活動

講義（実習科目）：社会福祉現場実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，精神保健福祉援助実習

○委員会活動

学部教務委員会，学部入試委員会，学部実習委員会，学部総務委員会

○社会的活動

(1) 学外においては，以下の教育活動に関わった.

① 高知医療学院「社会福祉学」非常勤講師

② 国立病院機構高知病院附属看護学校「社会福祉・演習」非常勤講師

③ 高知福祉専門学校「児童福祉論Ⅰ」非常勤講師

④ 近畿大学豊岡短期大学「児童福祉Ⅰ」非常勤講師

⑤ 土佐リハビリテーションカレッジ「社会福祉概論」非常勤講師

⑥ 高知県社会福祉協議会主催「介護福祉士養成講座」講師（障害者福祉論）

(2) 特定非営利活動法人精神保健福祉交流促進協会の運営にかかわった(同実行委員)。

(3) 社団法人やどかりの里（さいたま市）の研究機関・やどかり研究所で，その運営にかかわった（同運営委員）．また、同団体の職員との相互学習会（月1回）の世話人として、議論の進行・まとめ役を担った.

(4) 社会福祉士国家試験の受験生のうち，とりわけ県内の現任者を対象とした，受験勉強の個別指導を定期的に行い（週1回程度のFAXによる指導ならびに月1回程度の面接指導），学習方法の教授と合格率の向上に貢献した.

(5) 高知シティＦＭ放送番組審議委員として年6回程度の委員会へ参加した.

○学部の総合評価と今後の課題

(1) 本学部における国家試験への対応

在学生の自主的な学習活動が定着しつつあるので，今後は本学部卒業生のうち資格未取得者に対する個別指導が行えないかどうか，学部として検討していく必要がある.

(2) 卒業生の組織化と卒後教育に関して

卒後・生涯教育の観点から、卒業生に対する大学の現状や国家試験に関する定期的な情報提供の方法や卒業生の組織化について，学部として検討していく必要がある.

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
（委員会活動年度報告書）

教務委員会

西内　　章

1．教務委員会の活動

教務委員会の役割は以下のものである。

（1）　教育課程の構成、学科目の種類、編成及び履修方法にかかる調整、企画立案、運営及び実施に関すること。

（2）　学生の転入学、編入学、転学部、転学科、休学、復学、退学に関すること

（3）　試験及び卒業に関すること

（4）　他大学との単位互換に関すること

（5）　その他社会福祉学部の教育課程に関すること

2．2004年度の経過報告

教育カリキュラムの検討

全学の取り組みでは、今年度より共通教育科目改革の一環として、英語コミュニケーション、土佐学、女性学が開講した。学部では、学部科目の改善を行い、2006 年度より「社会福祉ふれあい実習」、「精神保健福祉ふれあい実習」を導入することになった。

卒業研究論文に関する三発表会の実施

今年度も卒業研究論文の完成に向け「卒論構想発表会」、「卒論中間発表会」、「卒業研究論文発表会」を開催した。

3．今後の課題

共通教育科目について

これは、18年度以降の大学の検討課題になっていることであるが、英語コミュニケーション、土佐学、女性学以外の共通教育科目について内容の検討が望まれる。

社会福祉学部専門科目について

社会福祉学部専門科目については、カリキュラムおよび時間割の見直しを行うことが懸案事項になっており、現状の点検・評価と今後の方向性をふまえた取り組みを行っていかなければならない。ひきつづき次年度の教務委員会で検討していくことが望まれる。

教務事務について

学部教育を充実させ、かつスムーズに進めていくためには、教務担当教員と学生課、池事務室との連携が欠かせない。2キャンパス制をとっていることもあるため物理的に難しい側面もあるが、今後のカリキュラムの見直しを見据え、教育目標や教育課題の共通化を行いながら、さらに連携を深めていきたい。

入試委員会

長澤　紀美子

2005年度は、全学学部入試実施委員、全学入試委員を担当した。

平成１８年度社会福祉学部の入学試験に関する主なトピックスとしては、①後期入試のセンター試験利用科目の変更、②専門推薦に初めて県外校から受験、③一般後期入試で過去最高の志願者数の記録等である。

①センター試験利用科目の変更

一般入試後期日程における大学入試センター試験利用科目について、以前の外国語のみから、外国語と国語のうち、１科目を選択できるようにした（尚、英語については、ヒアリングテストは利用しない）。これによって後期日程の志願者の幅が広がり、志願者増に繋がった可能性がある。

②専門推薦に初めて県外から志願者

専門推薦に初めて県外高校から志願者（１名）があり、合格した。

③志願者数の増加

平成１８年度社会福祉学部の入試状況は以下のとおりである。

一般入試後期日程においては、過去最多の志願者・受験者数（志願者数158名・受験者数96名）を記録し、昨年度に引き続き、国公立大学で全国一の志願倍率（52.7倍）を達成した。

区分		募集人員	志願者数 C	受験者数 A	合格者数 B	入学者数	合格倍率 A/B	志願倍率 C/B
推薦	一般	9	22	22	9	9	2.4	2.4
	専門	1	1	1	1	1	1.0	1.0
個別	前期	17	138	125	22	20	5.7	8.1
	後期	3	158	96	5	3	19.2	52.7
私費外国人留学生		若干人	1	1	0	0	―	―
3年次編入		3	10	9	3	3	3.0	3.3
計		33	330	254	40	36	6.4	10.0

※私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試については、昨年度に引き続き、志願者１名について試験をおこなったが、今年は不合格であった。

学生委員会

鈴木　孝典

学生委員会は，学生の福利厚生の向上，自主的活動の支援，学生生活に必要な情報提供を目的に活動を展開している。今年度の活動内容は，以下のとおりである。

【 活動内容 】

Ⅰ．相談活動

保健師，心理カウンセラー，医師による相談窓口を定期的に開設した。相談の利用形態，利用時間，申し込み方法については，年度当初のオリエンテーションにて説明した。また，定期の相談日は，掲示板などを利用して学生に周知した。

併せて，2006年度より定期の相談日が増設されることから，新たに学生相談専用のスペースを社会福祉学部棟1階の110研究室に設置した。

Ⅱ．経済的援助

年度当初のオリエンテーションにて，日本学生支援機構の奨学金の申請方法を説明したほか，学生からの個別相談に応じ，適宜，授業料の免除や各種奨学金の申請などについて情報提供を行った。

Ⅲ．キャンパスルール

新年度を迎えるにあたり，駐車場および駐輪場の使用区域，自動車の構内走行，大学施設の使用などにかかわる規則について，社会福祉学部，看護学部，池事務室の3者で再度，確認を行った。

Ⅳ．情報提供

社会福祉学部棟の掲示板などを活用し，学生生活にかかわる情報を随時，提供した。また，4月には，サークル紹介専用の掲示板を特設し，新入生へのサークル情報の伝達の機会を在学生に提供した。

Ⅴ．健康の維持，向上

年度当初に健康診断を実施した。また，適宜，学生からの個別相談に応じ，保健室や学生相談窓口などを紹介した。併せて，保健室と随時，連携を図った。

【 今後の課題 】

○ 池キャンパスを主に利用する学生と永国寺キャンパスを主に利用する学生の交流

・分離したキャンパスの影響により，両キャンパスのサークル活動や学生自治活動が相互交流されていないことが，実態として見受けられる。とりわけ，池キャンパスの学生は，大学の催しごとやサークル団体の自治的な会議などが永国寺キャンパスの学生を中心に実施される傾向があり，その弊害を受けている実態が見られる。このことから，両キャンパスの学生間の交流をいかに促進するかが，全学の学生委員会において課題となっている。

就職委員会

川崎　育郎

1．全学就職委員会

永国寺キャンパスで開催された就職委員会では、就職ガイダンスや教員による企業訪問実施計画など学内における学生の就職支援について審議した。学科別の内定状況の報告やワクワクWORKからの報告を確認し就職支援について協議した。定期的な就職委員会とは別に会議をもち、永国寺キャンパスにある就職相談コーナー「ワクワクWORK!!」の池キャンパスへの設置の必要性について協議した。その結果、平成18年度より池キャンパスにも設置されるようになった。

全学就職ガイダンス（社会福祉学部関係）

社会福祉施設ガイダンス「社会福祉施設で求められる人材」

日時：2005年7月20日（水）15:55～18:00　　大講義室

講師：高知県児童養護施設協議会会長　児童養護施設南海少年寮施設長
　　藤原　亨
　　特別養護老人ホームはるの若菜荘施設長
　　中西　稔

2．学部就職委員会

社会福祉学部就職委員会は学生の就職支援について就職セミナーを実施した。また、2006年度採用高知女子大学社会福祉学部求人票の作成及び関係機関・施設への送付を行った。

社会福祉学部就職セミナーの開催

第1回就職セミナー

日時：2005年5月11日（水）18:00～19:30　　大講義室

講師：土佐山田在宅介護支援センター　社会福祉士
　　吉田　直司
　　卒業生　田口　貴美子（第3期生）
　　岡林　真知子（第4期生）
　　宮崎　真理　（第4期生）
　　黒岩　直美　（第4期生）

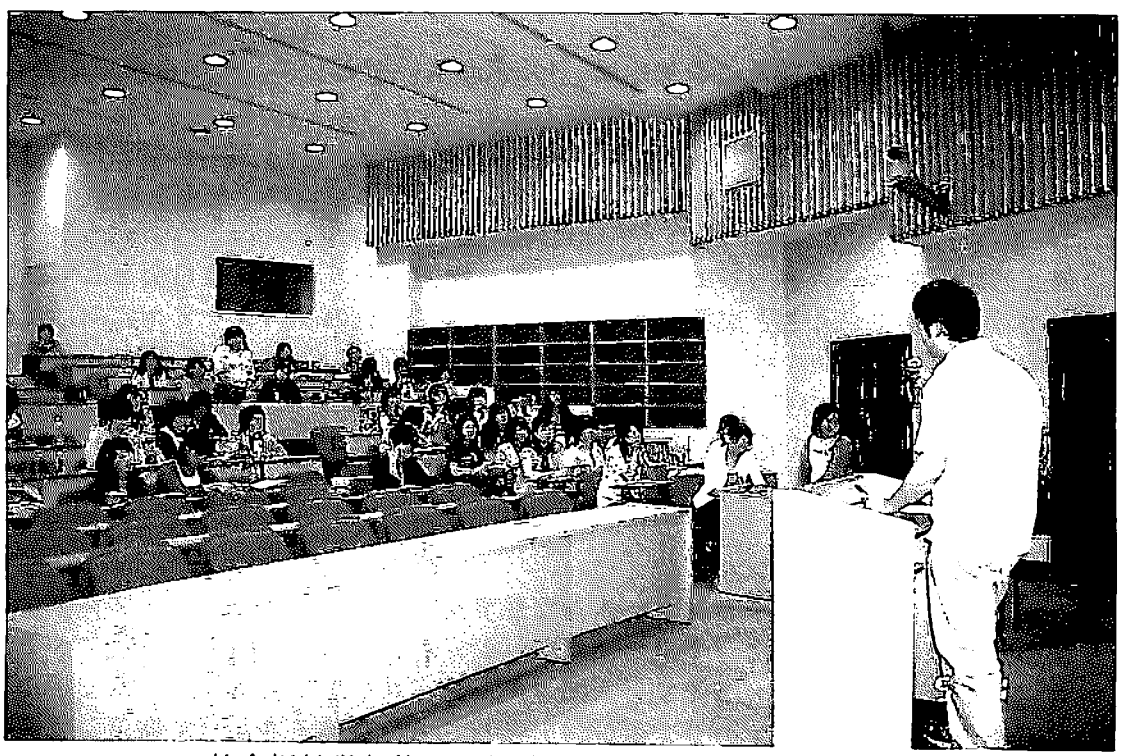
第2回就職セミナー

日時：2005年10月26日（水）18:00～19:30　　大講義室

講師：卒業生　刈谷　友美　（第1期生）
　　唐崎　梨里香（第2期生）
　　在学生　就職内定者
　　森麻　由子
　　中山　真理子
　　阿部　真弓
　　大山　千晶

3．4回生学年担当として

年度始めに各学生の就職希望を把握するための調査を実施した。学生に就職情報をもれなく伝達するために社会福祉学部棟の2階掲示板にも求人票を掲示するためのボードを新たに事務局の協力を得て設置した。池キャンパス事務室の就職担当者と情報交換をしながら学生へ求人情報の周知徹底を図るための努力をした。学生の就職などの進路相談にも務めた。その結果、43名の卒業生の内1名が大学院に進学し38名が就職した。卒業生の内、就職を希望していない学生もいるので、ほとんどの学生の就職が決定した。



社会福祉学部第1回就職セミナー（2005年5月11日）大講義室

広報委員会

川﨑　育郎

平成16年度の広報委員会の活動内容は次の通りである。

(1)　オープンキャンパス

５月から準備を始め８月１日に実施した。本年度は全体企画として「ミニシンポジウム」をＴＶ会議システムを用いて永国寺キャンパスと池キャンパスにおいて実施した。全体企画にも多くの参加者があった。次年度についてはNHKとのコラボレーションの企画も検討した。

(2) 大学案内・大学院案内2007

３月末の完成に向けて作業を進め，平成18年度4月当初よりの広報活動に向けての準備を整えた。

(3)高知女子大学学報

３月末の完成に向けて12月に原稿依頼、1月末原稿締切として、その後校正作業を行い、入学式で配布した。

(4) 新聞、ＴＶやラジオを活用した広報

オープンキャンパスや公開講座などの宣伝を実施した。

(5) ホームページ

企画広報班からホームページの拡充を検討する提案があり、広報委員会として拡充に向けて取り組んでいくことが確認された。ホームページのリニューアルに向けての作業を実施した。

(6) FMこうち

FMこうちのラジオ枠（第二水曜日16時45分～）イベントをタイムリーに広報できるように、出演者を検討した。

社会福祉学部のオープンキャンパス

社会福祉学部では学生と全教員が一体となり事務室の協力を得て、オープンキャンパスを開いた。本年は午前中に、全学共通のミニシンポジウム「女性とキャリア～未来の私を考えてみよう！～」が大講義室と永国寺キャンパスをＴＶ会議システムで結んで開かれた。社会福祉学部卒業生のシンポジストとして田口貴美子さん（3 期生　児童養護施設勤務）が出席した。12 時 45 分より学生の司会により社会福祉学部全体の説明会を大講義室で実施した（教員による説明：入試と就職、教務、実習学生体験談：1 回生 3 名）。その他、体験授業（住友雄資教授：社会福祉の援助とは）、教員による相談室、先輩による相談室（１回生）、学部紹介ビデオ上映会、学生によるアトラクション（昼食時に食堂にて：グローカルクラブのよさこい鳴子踊り、太鼓部の演奏）などを開いた。全体説明会では手話サークルの協力もあった。社会福祉学部棟で受け付けた参加者総数は 56 名（県内 36、県外 18：香川 6、徳島 6、愛媛 5、広島 1、県内外不明 2）であった。

体験、そして実感。

人間っておもしろい！

学生・教員に、なんでもきいてみてください！　Open10:00～　Close16：00

高知女子大学社会福祉学部

OPEN CAMPUS 2005

テレビ会議システムを利用
永国寺一池キャンパスを結んでの

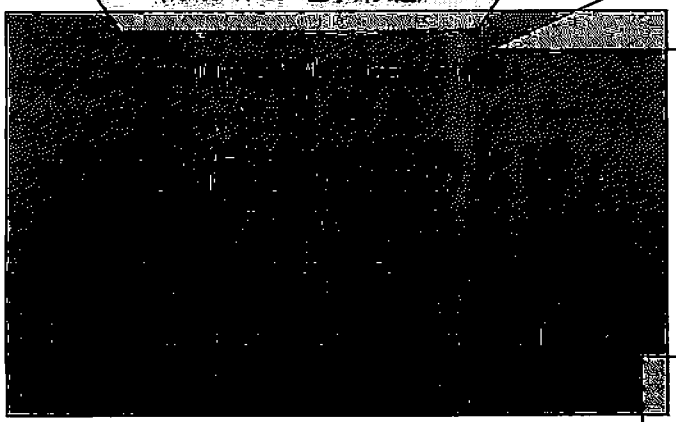
特　別　企　画

(10:00-11:30・全学科共通)

社会福祉学部が　まるごとわかる！

学部全体説明会

(12:45-13:50)



4月入学！一回生の

先輩による相談室

(13:50-15:40)

学生撮影の秘蔵ビデオを一挙公開！

学部紹介ビデオ上映会

(随時)

撮影好調

入試のことがよくわかる！
（入試相談コーナー）

教員による相談室

(①11:00-11:45 / ②14:00-15:40)

興味のある人は *8／1（月）* に、

池キャンパス社会福祉学部棟１Ｆ受付へ

GO!

国際交流委員会

玉里　恵美子

（1）アメリカ：エルムズ大学学生訪問
期間：2005年5月28日～6月9日
訪問学生：9名

（2）モンゴル：ウランバートル第23番外国語特別教育学校学生訪問
期間：第一回目　2005年5月18日～7月22日
　　第二回目　2005年9月28日～12月2日
訪問学生：第一回目　2名
　　第二回目　3名
池モンゴルデー：一回目　家族社会学、社会福祉入門・基礎演習に参加
　　二回目　地域社会学、社会科学入門に参加、およびモンゴル研修説明会の実施

（3）アメリカ：エルムズ大学長期本学学生派遣
期間：2005年9月3日～12月18日
派遣学生：生活科学部環境理学科2年生1名

（4）アメリカ：エルムズ大学短期本学学生派遣
期間：2006年2月20日～3月7日
引率：文化学部　長妻由里子
派遣学生：10名（看護学部7名、生活科学部2名、文化学部1名）

（5）モンゴル：本学学生派遣
目的：①本学と国際交流の関係にあるウランバートル第23番外国語特別教育学校並びにモンゴル国立経済大学の学生との交流を促進する。
②モンゴルの医療現場や孤児施設などを訪問し、モンゴル社会についての理解を深める。
③平成18年度以降のモンゴル青少年交流協会との国際交流協定締結に備える。
期間：2006年3月26日～4月4日
引率：文化学部　高西成介、総務企画課　谷岡優花
派遣学生：モンゴル研修実行委員代表　社会福祉学部3年生　小川真世、岡田阿子
社会福祉学部3年生　田中優子、徳丸景子
社会福祉学部1年生　伊井優芽、沖野典子、竹内香織、名倉望佳乃、西野真麻、山本麻子

（7）国際交流セミナー
日時：2005年7月8日18：30～20：00
講師：モンゴルウランバートル第23番外国語特別教育学校日本語講師　小路哲先生
題目：モンゴルにおける日本語教育と短期体験留学生派遣の意義

（8） JICA 高知女子大学プログラム（JICA Kochi Women's University Group Training Program 2005）

コース名：女性の生活と地位向上に寄与するリーダーの養成コース

期間：2005 年 8 月 1 日～8 月 21 日

プロジェクト長：生活科学部

参加研修員：9 名（バングラデシュ、インドネシア、モンゴル、ネパール、パキスタン、ウズベキスタン、ベトナム、アフガニスタン、カンボジア）

社会福祉学部より参加：玉里恵美子 "Women and Changes in Localities and Families"、" Empowerment of Citizen-Participation-Type Festival – Power of Welfare and Education Which "Yosakoi" Has –"（2005 年 8 月 9 日）。

＜2005 年度を振り返って＞

2005 年度はアメリカのエルムズ大学との交流およびモンゴルのウランバートル第 23 番外国語特別教育学校との交流が双方向に実施され、高知女子大学の国際交流が飛躍的に発展した年度であった。

本学を訪問した留学生との交流を深めるため、「フレンドシップパートナー」制度を新たに設けたが、社会福祉学部からは 1 年生を中心に多くの学生が参加した。エルムズ大学留学生の送別会（池生協にて開催）では、グローカルクラブ（Japarean）や太鼓部の演奏が会場を盛り上げた。

また、特筆すべきことは、準備期間が短かったにもかかわらずモンゴル派遣研修を大学行事として実施したことである。モンゴルからの留学生が滞在している期間に、池モンゴルデーを実施し、社会福祉学部 1 年生を中心にモンゴル社会について理解を深める授業を実施した。その授業の中でモンゴルに関心を持った学生 6 名と、モンゴル学生の引率教員である小路哲先生によるモンゴル研修説明会を通して社会福祉学部 3 年生 4 名がモンゴル研修に意欲を持った。結果的に、社会福祉学部学生 10 名のモンゴルへの理解と情熱が国際交流委員会を動かし、国際交流委員会委員長高西成介先生のご尽力により、大学行事としてモンゴルへ派遣することが可能となった。

さらに、国際交流委員会事業ではなかったが、2005 年度より JICA（国際協力機構）によるプロジェクトが開始され、講師として、あるいは学生（グローカルクラブ）としてプロジェクトに参加した。

総合情報センター運営委員会

松田　眞一

1．年間を通じ、関係する諸問題について、広い目配りと緻密なフォローがなされた（センター長の熱意に敬意を表する）。
2．センターの今後の課題について、大項目のみ列挙すると（2月6日資料）、2部門と将来構想とにわかれる。①図書部門の課題、②情報処理部門の課題、③将来構想（広報部門等も含める）、である。

人権委員会

松田　眞一

1．本年度の活動としては、昨年の方針の具体化・展開として、「研究における倫理問題」を重視し、この問題に先行して取り組んでいる医学分野での「現状と課題」から学ぶことにした。
2．企画としては、次の内容で、講演会を開催した。
　① 日時：平成18年2月22日（水）　15時～16時
　② 場所：永国寺キャンパス、205教室
　③ 講師：高知大学医学部教授　橋本良明氏
　④ テーマ：市民の視点、研究者の視点－医学倫理審査の経験を踏まえて－

地域創成センター

吉野　由美子

全学的には、昨年度に引き続き高知女子大学からの情報発信として「ニュースレター」を作成し委員として、その原稿のとりまとめ、記事あつめなどに関わった。

学部内では、「地域に開かれた大学」をめざし、リカレント教育講座、高校生のための公開講座を企画、開催した。

高校生のための公開講座は、今年度二日間に短縮した日程で７月２８日・２９日に開催し、高知県内から２４名が参加した。日程を二日間に短縮したことで、受講生の夏休みの他の活動との折り合いがつき、ほとんどの受講生がすべてのカリキュラムに欠席せず、参加することができ、充実した講座となった。

平成１７年度リカレント教育講座は、平成１６年度までのやり方を大幅に見直し、「コース性」の枠を外して、「社会福祉アップ　ツー　デート」というテーマの下、６タイプの講義を配置して、受講生が自らの興味に従って、何タイプでも受講できる方式をとった。受講申込者は５５名と好評であった。

また、社会福祉学部が４期の卒業生を送り出したのを機に、社会福祉現場で働く卒業生の卒後教育の試みとして、「パアーアップセミナー」を開講したが、平日の夜間という開講時期の問題などもあり、３名の参加しか得られず、開講時期や開講方法について、多くの課題を残した。

地域創生センター資料（高校生のための公開講座・開催要項）

第６回高校生のための公開講座
今年度のLINE-UP

	7月28日（木）	7月29日（金）
１時限	【池キャンパスへのアクセス】 はりまや橋 9：15 → 高知女子大学 9：35 9：50 → 10：10 バス：大人片道 330 円（土佐電ドリームサービス）	
２時限 10：20～11：50	開講式 【講座①】 社会福祉学部ってどんなところ？ （前山　智教授）	【講座④】 人間の条件～福祉と人権について考える （吉野　由美子教授）
昼休み	昼食（キャンパス内の生協食堂・売店がご利用頂けます）	
３時限 12：35～14：05	【講座②】 対人支援の基礎を学ぼう！ （西内　章講師）	【講座⑤】 介護するために必要な力とは？～探ってみよう、あなたの介護力 （宮上　多加子助教授）
４時限 14：15～15：45	【講座③】 田内千鶴子さんを知っていますか？ （玉里　恵美子助教授）	【講座⑥】 途上国の子どもたち～今何が問題か （長澤　紀美子講師）
５時限 15：55～17：25	（学部内自由見学）	【サロン】 みんなの疑問に答えて～ 実習・資格取得のことなど ※（複数教員） 17：00～　閉講式
	【池キャンパスからのアクセス】 高知女子大学 15：58 → はりまや橋 16：21 17：48 → 18：12 バス：大人片道 330 円（土佐電ドリームサービス）	

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。予めご承知おきください。

ご案内：１．　両日とも学内の生協食堂・売店がご利用いただけます。

２．　8/1（月）は高知女子大学オープンキャンパスが開催されます（事前申込不要）。こちらにもぜひお出かけ下さい。

平成17年度リカレント教育講座
今年のLINE-UP

講座	テーマ （担当講師）	開講日時	受講対象者 ・定員
A	【社会福祉UP TO DATE -1】 **介護保険制度改革の意義と限界** （栗田　明良　教授） 本コースでは、高齢者の「尊厳の保持」が明記された改正介護保険法によって何がどのように変わろうとしているのか？中山間地域の高齢者介護・福祉をめぐる研究成果を踏まえつつ、その意義と限界にアプローチしてみたい。	10/22（土） 13:30～15:30	介護保険制度に関心ある社会人 ・ 3～30名
B	【社会福祉UP TO DATE -2】 **介護サービス情報の公開と福祉サービスの第三者評価** （長澤　紀美子　助教授） 平成１８年度から、特養等の介護保険事業所に義務づけられる「介護サービス情報の公開」、福祉サービス事業者に受審が推奨されている「福祉サービス第三者評価事業」の取り組みなど、評価に係わる最新動向を解説し、事業者側からみた課題等を議論したい。	12/3（土） 13:30～15:30	社会福祉施設および介護保険事業所等の職員 ・ 3～30名
C	【社会福祉UP TO DATE -3】 **地域福祉（活動）計画策定のすすめ** （玉里　恵美子　助教授） 高知県内で先進的に地域福祉（活動）計画に取り組んでいる土佐清水市と室戸市の事例を紹介しながら、今後、策定を検討している市町村および市町村社会福祉協議会の抱えている問題点について、参加者全員で議論し、アドバイスを行う。 なお、本講座は「高知県地域福祉活動推進委員会」の後援を得て実施しており、講座当日は高知県社会福祉協議会および高知県健康福祉部の地域福祉担当にも出席していただく予定。	11/26（土） 13:30～15:30	市町村地域福祉担当者および市町村社会福祉協議会地域福祉担当者 ・ 3～30名
備考	1）　複数の講座を併修できます．申込者がいない場合には当該講座は開講しません． 2）　いずれの講座も池キャンパスで開催します（詳細は受講証送付の際にお知らせします）．		

地域創生センター資料（平成17年度リカレント教育講座・開催要項）

講座	テーマ（担当講師）	開講日時	受講対象者・定員
D	【社会福祉 UP TO DATE -4】 障害者福祉サービス提供システムの現状と課題 （吉野　由美子　助教授） ①「障害者福祉サービス提供システムの現状と課題」…措置制度から支援費制度への劇的な変化・障害者自立支援法・発達支援法・特別支援教育などについて、分かりやすく分析する. ②「今後の障害者福祉サービスのあり方について考える－高知県を中心に－」…サービス提供体制の劇的な変化を踏まえ、サービスを提供する側・当事者に何が起こるか高知県の現状を例におきながら考えて行く.	《全2回》 ①11/30（水） ②12/ 7（水） 18:30～20:30	障害者福祉に関わりのある方 および 関心のある方 ・ 3～30名
E	【社会福祉 UP TO DATE -5】 聴覚障害者とのコミュニケーション （長南　浩人　講師） 聴覚障害者とコミュニケーションする際にどのような手段を用いればよいのか、また注意点などについて実技指導を交えながら解説する.	11/16（水） 18:30～20:00	一般 ・ 10～30名
F	【特別講演】 公的年金を考える （柳樂　晃洋氏） 公的年金とその改革については、広く注目を集めているが、一般に十分理解されているとは言えない。年金制度は「崩壊寸前」で「不公平」と言われるが、その評価は正しいのか？ 社会福祉との関連も意識しつつ、公的年金制度について考え、理解を深めるきっかけとしたい。	事前お申込者以外の, 当日参加も可能です. お誘い合わせの上ご来場下さい. 11/19（土） 14:00～16:00	一般 ・ 200名
	柳樂　晃洋（なぎら・てるひろ）…1964年大阪市生まれ. 東京大学教養学部卒業後, 厚生省入省. 社会保険庁, 北九州市高齢者福祉課長, 年金局, 大臣官房国際課などを経て, 2003年に本学社会福祉学部助教授. 2005年より厚生労働省年金局総務課企画官.		
備考	1)　複数の講座を併修できます. 申込者がいない場合には当該講座は開講しません. 2)　いずれの講座も池キャンパスで開催します（詳細は受講証送付の際にお知らせします）.		

□本学部卒業生対象講座のご案内

講座	テーマ（担当講師）	開講日時	受講対象者・定員
G	【本学部卒業生対象】 卒業生パワーアップセミナー （住友　雄資　教授・宮上　多加子　助教授・西内　章　講師） 職域別ワークショップ…職域別研究発表・事例検討など，受講生のニーズに合ったワークショップを行う．（担当：宮上・西内） 社会福祉研究法入門…社会福祉の現場で出会う様々な問題や事象をどのように取り上げ，研究につなげていくか，その方法を学ぶ．（担当・住友）	《全9回》 ①10/20（木） ②10/27（木） ③11/10（木） ④11/17（木） ⑤11/24（木） ⑥12/ 1（木） ⑦12/ 8（木） ⑧12/15（木） ⑨12/22（木） 19:00～20:30	本学部卒業生 ・ 3～10名
備考	1)　複数の講座を併修できます．申込者がいない場合には当該講座は開講しません． 2)　いずれの講座も池キャンパス社会福祉学部棟で開催（詳細は受講証送付の際にお知らせします）．		

■各講座を担当する本学講師陣の紹介（五十音順）

住友　雄資（すみとも・ゆうじ）　同教授。専門はソーシャルワーク、精神保健福祉。
玉里　恵美子（たまざと・えみこ）　同助教授。専門は農村社会学、家族社会学。
長澤　紀美子（ながさわ・きみこ）　同講師。専門は国際福祉、社会福祉政策。
西内　章（にしうち・あきら）　同講師。専門は社会福祉援助技術。社会福祉士。
宮上　多加子（みやうえ・たかこ）　同助教授。専門は介護福祉学。看護師。
吉野　由美子（よしの・ゆみこ）　同助教授。専門は視覚障害リハビリテーション。

実習委員会

住友　雄資

実習に関する詳細は，すべて『2005年度　社会福祉実習報告書（タイトル：野に咲く花）』（2006年３月刊行）に記してあるので，そのなかに掲載されている実習委員長挨拶「2005年度『実習報告書』刊行にあたって」を以下に再掲することで今年度報告に代えたい。

なお，報告書タイトルの命名理由を，編集委員である学生たちが次のように説明している．それは「私たちが目指している福祉に携わる者は『縁の下の力持ち』だと思っています．主人公は福祉サービスを利用する方々であり，福祉に携わる者は利用者を裏からサポートします．福祉に携わる者を花に例えると，豪華なバラでもなく，色鮮やかなガーベラでもなく，どこにでも咲いている花，つまり『野に咲く花』だと感じています．今後，私たちが福祉に携わっていく中で『野に咲く花』のように，『縁の下の力持ち』として行動できることを願い，このタイトルをつけました」と．こういう感性をもった学生を実習に出すことができたこと，そのことを実習委員会として素直に喜びたい．

「2005年度も高知女子大学社会福祉学部の実習は次のとおりに実施されました．社会福祉士関係では，２年次の事前学習を行う「社会福祉現場実習Ⅰ」（１単位）に始まり，３年次に「社会福祉現場実習Ⅱ」（機関・３単位）と「社会福祉現場実習Ⅲ」（施設・３単位）で180時間以上の配属実習と事後学習を行いました．精神保健福祉士関係では，３年次から４年次の２年間にわたって「精神保健福祉援助実習」（７単位）が実施されました（３年次に事前学習，４年次に180時間以上の配属実習と事後学習）．したがって，今年度（2005年度）の「実習報告書」には，３年次の「社会福祉現場実習Ⅱ」「社会福祉現場実習Ⅲ」および４年次の「精神保健福祉援助実習」を履修した計５３名の実習報告が掲載されています．

本学部の実習は学生自身が選択・決定することを基本としています．他大学の場合，大学側が実習先と交渉・調整することが多いようですが，本学ではそれを原則としておこなっておりません．もちろん実習科目はすべて選択科目ですので，教員も無理強いしません．また履修したとしても，実習先を選ぶ際には学生自らが探し，アポイントメントをとって実際に訪問・見学を行い，内諾を得る作業をおこないます．

ぜひともこのような体験から，自らで決めるという意味や選択時に迷うことの大切さなどを深く胸に刻み込み，そのことをとおして，利用契約の意義や福祉サービス利用者の気持ちや思いなどを理解してほしいと思っています．それが対人援助職としての第一歩になると信じています．これらの学びから，今後の彼女らの成長を大いに期待しております．

しかしここ数年の実施状況から課題も見え始めました．精神保健福祉援助実習のことですが，実習で初めて精神障害者と出会うという記述が多くなってきたことです．これが出発点ではまずいと考え，2006年度からカリキュラムを一部改正しました．それは，「社会福祉現場実習Ⅰ」の前提となる科目「社会福祉ふれあい実習」（１単位，１年次），「精神保健福祉援助実習」の前提となる科目「精神保健福祉ふれあい実習」（１単位，２年次）の新設です．これらの科目は，ボランティアに行ったりして，利用者と直接ふれあい，利用者を知り，実習に行くという動機づけをより明確にさせることを目的としています．これらのことを通じて，主体的に学ぶという意味を実感すると同時に，福祉専門職としての実習の質を高めていきたいと考えております．

最後になりましたが，この学びの場を提供していただいたこと，そこでの多大なるご迷惑をおかけしたことなどを，この場をお借りして深くお詫びと感謝申し上げます．また今後とも本学部の実習へのご理解とご協力，ご支援をよろしくお願い申し上げます．」

総務・予算委員会

宮上　多加子

総務委員会・予算委員会として行った業務は，下記のとおりである．

1　教授会の資料準備及び運営：毎月一回の教授会に提出する議題及び総務に関わる事項を集約・調整し，教授会の議事メモを作成した．

2　高校生見学に対応：高知県内高校からの見学者に対応するため，池事務室及び看護学部担当者との調整をしながら，学部紹介及び案内をおこなった．

3　学部日常事務の対応：414教材作成室の用紙および文具等の補充，機器の調整等を行った．また，寄贈資料，手紙の登録，整理，回覧などの業務に対応した．

4　社会福祉学部報第７号の編集，発行：2005年学部報（2004年度自己点検評価資料）の内容は，年度概況，教員の教育教究活動，学部内委員会活動，地域貢献活動，学生を中心とした活動報告および資料から構成されている．巻末には，卒業論文題目一覧を掲載した．印刷部数は700部である．

5　学部ＰＲ誌の発行：2003年度版から発行している学部ＰＲ誌（「こんにちわ　社会福祉学部です」）を一部改訂し発行した．読みやすく親しみやすいとの反響が多く，また学部ホームページに内容が掲載されていることもあり，学外へのＰＲに役立っている．

6　教育用機器および備品の整備：414共同研究室（教材作成室）に設置しているコピー機が老朽化したため，機器を交換し新たにリース契約を行った．教育機器については，大型プリンター，ビデオカメラ，デジタル一眼レフカメラ，教材用ビデオおよびＤＶＤ数セットを購入した．

予算委員会は，学部の学生教育費（実験実習費）や教員研究費に関する予算編成が主たる業務であった．今後は，大学予算全体の削減という流れの中で，大学院予算との効果的な連携を考えた予算編成が必要であろう．

総務委員会の継続的な課題として，次のようなものがある．

・　社会福祉学部共用の備品の整備および管理体制の検討
・　教育機材の管理運用体制の検討（学生への貸し出しを含む）

Ⅳ

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士

国家試験に向けての取り組み

5期生（06年3月卒）　河内　歩・早川久美子

社会福祉学部5期生は、先輩方の素晴らしい成果を受け2006年1月28・29日の社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験（以下国家試験、または国試）に向けて取り組みました。先輩方の築き上げた勉強方法を土台に、さらに個人・グループで学習に励み、試行錯誤しながらも国家試験に挑みました。この報告では、本格的に勉強会または個人で学習を始めた頃から、国家試験までの取り組みについて紹介していきます。

2005年前半

2005年3月に国家試験対策のガイダンスが開かれた。テキストや問題集といった受験生のバイブル・勉強方法について知り、先輩方の受験の体験とテキストへの書き込みといった一年間の蓄積に触れることで、国家試験という壁を感じた。この時期から勉強を始めた学生もいるが、本格的なグループ学習が始まったのは5月頃であった。私たちは6人でグループを組み、毎週木曜日305 教室（社会福祉実習室）に集まり、お互いの勉強の進み具合や疑問に思った問題を調べあっていた。また斎藤征人先生に効率的な勉強方法について指導を受け、徐々に国家試験に向けて勉強を開始した。この頃は、問題を解く時間やワークに線を引く作業だけでもとても時間がかかり苦労した。

2005年8・9月

大学は夏休みに入り、この時期は精神の実習や卒業論文の調査、資料収集、執筆作業などを進めなければならず、国試の勉強が思うように進まなかった。夏休み前に身につけた勉強のペースを崩してしまう学生が多かったように思う。9 月の中頃には受験の手続きがあり、そろそろ本格的に勉強しなければならない！！という緊張感が芽生え始めた。

2005年10・11月

10月に入ると卒論の中間発表もあり、卒論が重点的になってくる時期であった。しかし夏休みにペースダウンしていた分、この頃から各自勉強量を増やし国試と卒論の両立に励んでいた。国試と卒論の両立については、卒論に行き詰まると国試の勉強、国試の勉強に集中できなくなると卒論に切り替えている人が多かった。過去問を解くことには大分慣れてきたものの、思うように点数が上がらず悩むこともしばしばあった。勉強方法については「クリスマスまでに過去3年分の過去問で6割以上とることが目標」という斎藤先生の言葉に刺激を受け、それを合言葉にして勉強に奮起した。

10月23日には初めての模擬試験を受けた。本番に近い状態で緊張感を味わいつつ、時間内に全ての問題を解ききることが最初の課題だった。限られた時間の中で、150 問の問題を解く勉強方法はまだ誰もしていなかったため、この日はとても疲れてしまった。模擬試験を通して自分の苦手分野を把握し、まだまだ曖昧な知識が多いことを知った。模擬試験で気付いた反省を活かし、その後の勉強方法を改善するよう努力した。その後も月に1度のペースで模擬試験を受けていったが、模擬試験で学ぶことは大きかったように思う。何より勉強の成果を感じた瞬間はとても嬉

しかった。

2005年12月

12月は卒業論文の提出があり、国試そっちのけで卒論に取り掛からなければならない日が続いた。過去3年分の過去問の2回目を終了する学生もいたが、グループ学習では集まっても、「今は卒論しかやってない」という声が多かったように思う。卒論提出の2日後には最後の模擬試験があった。この日は高知県では珍しく大雪が降り、遅刻してくる学生も多くいた。本番はこれ以上に寒い季節であり、どんな天候状況でも遅刻しないように気を付けなければならないと思った。ちなみに精神は最初で最後の模擬試験であった。模擬試験は、過去問とはまた違った形式の問題が多く出題されていた。想定外の問題はその後の新たな課題へとつながった。

また年末には斎藤先生が“クリスマスから始める国試勉強”というこの学年にぴったりの時間割表を作ってくださった。学生が斎藤先生に個別に相談にのってもらいながら、自分の生活リズムに合った時間割を立て、それに沿って勉強を進めていった。社会福祉だけの受験生は8時間、精神とダブルの受験生は10時間を目安に時間割を立てていたため、国試中心の生活がこの頃からやっとはじまった。(反面教師として、ここは読み流して下さい)

2006年1月

国試モード一色の1月。この頃からゼミ室や実習室の雰囲気はガラリと変わっていた。正月に怠けてしまった人もこの雰囲気に刺激を受け、共に励ましあいながら毎日日が暮れるまで机に向かった。恒例となった合宿には5期生の半分以上が参加し、とても有意義な時間を過ごした。合宿で身につけた勉強のペースはその後も続き、集中力と程よい緊張感が自然と身についていったような気がする。あとから振り返ってみると、この時期が一番しんどい時期であり、一番頑張ったと言える時期でもあった。

社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験を終えて

試験勉強を行う日々はとても長く険しい道のりでした。模擬試験を受けても過去問題に取り組んでも、なかなか得点が上がらないことに悩み、自分の勉強方法は本当にこれでいいのか？と焦りや不安を感じることが多くありました。どんなに勉強を重ねても、「これで完璧！絶対に合格！！」とは思えなかったような気がします。そんな日々の中で、先生方からは温かい励ましの言葉やアドバイスをたくさん頂きました。そして共に学んできた友達の存在は、挫折してしまいそうな時にも最後まで頑張り続ける勇気を与えてくれました。

国家試験までの日々を思い返してみると、大変なことも多くありましたが、どんな時も支えてくれる人がいました。そして大学で学んできた4年間の学びの一つひとつを思い返す貴重な時間であったと思います。国試の勉強で身につけた“何事も諦めず、最後までやり遂げる”という精神力は社会に出ても活かせるものだと思います。また、身につけた知識については今後より一層向上させていきたいと思います。

付記

なお、本学5期生の合格率は、社会福祉士69.0%（全国平均28.0%）、精神保健福祉士89.5%（全国平均61.3%）でした。

平成18年3月31日

グローカルクラブ

3年　細松　由香

私たちは、「Think globally, Act locally」を合言葉に“世界的な視野を持ちつつ地域に根ざした活動をしていくこと”を目標として活動しています。活動の三本柱としているのが「国際交流」「地域交流」「ボランティア」です。具体的には、日韓学生合同よさこいチーム Japarean を結成してよさこい祭りに参加したり、三里地区の親水まつりや三里まつりなど、さまざまなイベントに参加したり、施設などを訪問してのよさこい披露などをしています。

日韓学生合同よさこいチーム Japarean では、毎年韓国から学生を招き、2週間ほどですが共に生活をしてよさこい祭りに参加しています。しかし、昨年度は韓国学生の事情により韓国から学生が来られず、日本の学生のみの Japarean となってしまいました。このことで、私たち自身も、韓国人が来てくれるということの大きさに気づくことができたと思います。そして、来てもらうだけではいけない、これからは私達も韓国へ行ってお互いの国で交流しよう、自分たちで韓国人に Japarean をアピールしようと考え、3月に3名の部員が韓国でホームステイをしてきました。以前 Japarean に参加してくれた学生と再会し、韓国の生の文化に触れ、大きな刺激を受けてきました。そして現在、部員全員が今年はぜひ韓国人と一緒に踊りたいという想いを持ち、夏に向けての準備を進めています。

私たちの活動は、学内外問わず、たくさんの方々のご理解、ご協力があるからこそ続けていくことができるものだと思います。昨年の活動を振り返っても本当に人と人とのつながりを感じることができ、大きなものを得ることができました。これからも人との出会い、つながりを大切に、活動の幅をさらに広げて大きく成長し続けていきたいと思います。

♪太鼓部♪

３年　　日高　かおり

こんにちは！太鼓部です。私たち太鼓部は、４回生３人、３回生６人、２回生８人の計１７人で活動しています。普段は一週間に二回のペースで、池キャンパスの体育館の片隅で練習しています。主な活動として、地域のお祭りに参加させて頂いたり、福祉施設での訪問演奏などを行っています。また、昨年は、地域の小学生に約２ヶ月にわたって太鼓を教えに行ったり、校内の行事としては、初めて、学祭に参加させていただき、また、卒業式でも叩かせていただくという素晴らしい機会もいただきました。練習では、二ヶ月に一回、今も仕事とは別に太鼓の活動をされている卒業生の先輩に指導して頂いたり、夏休みには希望者だけで東京の太鼓をしている団体の講座に参加させていただいて、技術の向上を目指しています。私も去年の夏の講座に参加させてもらいましたが、普段の生活では出会わないような多くの人々と出会うことができました。また、三日間朝から夜までの練習で、大変きつかったけれど、とても楽しむことが出来て、いろんなことを教えてもらい、本当に貴重な体験ができた三日間でした。

また、太鼓部では一年間を通して高知県の西の方にある樹原というところに田んぼを借りて米作りをしています。田起こしから稲刈りまでの作業を一年間に何度か樹原に出向いて行っています。わたしたちだけでは出来ないので、その地域の米作りのプロの方や、近くの田んぼで米を作っている方々に教えてもらい、夜には宴会もしました。

このように太鼓部では、ただ太鼓を学ぶだけでなく、学校や授業では学べないようなこともたくさん体験できます。そして、普通に生活していただけでは絶対に知り合えないような人とも仲良くなることが出来る、本当に素敵な部だと思います。そんな太鼓部をどうかこれからも見守っていて下さい・・・。

★池手話サークル★

3年　藤原　万弓

こんにちは！池手話サークルです。年々、看護学部の部員も増えてきていますが、部員の多くは社会福祉学部の学生で構成されています。手話通訳士の資格をお持ちの社会福祉学部卒業生の先輩に手話を講義形式で教えてもらっています。雑談を交えながらみんなで真剣に手話を学んでいます。

昨年度の活動は、夏にオープンキャンパスで情報保障としての手話通訳、秋冬には聴覚障害者協会の青年部との交流会、学祭では手話コーラス、福祉ボランティア体験スクールで高校生を対象とした手話講座をしました。どれも私たちにとって、手話上達への素晴らしい経験でした。

手話は一つの言語であり、コミュニケーション手段でもあります。手話を学ぶことで、聴覚障害者の方々と関わることができ、交流会をするたびに、もっともっと上達して、もっともっと話がしたいと、毎回感じています。

手話は、言葉を使わずに手と表情と口の動き、体全身で相手に気持ちを伝えるという魅力があります。言葉を使わなくても、様々な手段で相手に言いたいことや気持ちが伝えられるということは、自分を表現するうえでとても大切なことだと私は思います。

みんなで楽しく活動しています！そんな池手話サークルをよろしくお願いします。

２回生初企画学部旅行 in 松山

３年　西山　幸代・林　鮎美・福田　真理・松井　雪美

私たち２回生は２月 28 日と３月１日の２日間、とべ動物園や道後温泉、松山城など松山市を中心に１泊２日の学部旅行に出かけました。あいにく天気には恵まれませんでしたが、学生企画による初めての学部旅行は大成功に終わったのではないかと思います。

そもそもなぜ学部旅行をすることになったかというと、学年担当の吉野先生の提案がそのきっかけでした。いわゆる「クラス」で行動するのは２年間で、３回生からはゼミに分かれます。そこで大学生活の半分を終えたこの時期に「クラス」での思い出を作り、それを節目とし、残りの２年間も頑張ろうという思いを込め、みんなで旅行に行きませんかと提案してくださったのです。そして、私たちは旅行委員として旅行の準備にとりかかり始めました。旅行の準備は予想以上に大変でしたが、“旅行を成功させたい”“みんなに楽しんでもらいたい”という思いが、旅行当日までの間、私たちの心の中には常にありました。

旅行中は様々なところでみんなに協力してもらい、とても楽しい時間を過ごすことができました。バスの中でのレクレーションやカラオケ、砥部焼の絵付け体験、ホテルでのひと時や松山市街での買い物など、観光地を巡ること以外の多くの思い出もできました。人をまとめることはとても大変なことだったけれど、みんなが楽しそうにしている姿は、“旅行委員をして良かった”と心から思わせてくれ、私たちにとって何よりも嬉しいものでした。

今回の旅行は、決して私たち４人だけが努力して実行できたのではなく、協力してくれた学部のみんな、そしてこのようなきっかけを与えてくださった吉野先生の存在があったからこそ成功できたのだと実感しています。大学生活は残り２年。この２年の間には実習や国家試験などこれからの私たちに大きな影響を及ぼすであろうものがたくさんあります。嬉しい時にはその喜びを共有して味わい、苦しい時や辛い時には互いに助け合い、支えあえることができる人間関係をこれからも築き、素晴らしい思い出をつくりながら、ともに大きな壁を乗り越えていけたらと思います。

モンゴル学生研修を終えて

4年　岡田　阿子・小川　真世

モンゴル研修のきっかけは、モンゴルの留学生のお別れパーティーに参加させていただいたことだった。そこで、モンゴルの日本語学校で日本語を教えていらっしゃる小路哲先生と出会った。小路先生からモンゴルのお話を聞いてから、モンゴルに関心を抱くようになったのだ。

そして2006年3月26日。ついに私たちはモンゴルに向けて旅立つことになった。日程は、3月26日～4月4日の10日間。研修参加者は引率として、文化学部の高西先生、事務の谷岡さん、社会福祉学部4回生岡田阿子、小川真世、田中優子、徳丸景子、2回生伊井優芽、沖野典子、武内香織、名倉望佳乃、西野真麻、山本麻子の12名だ。

研修の目的は、モンゴルで日本語を学んでいる学生とホームスティや学校訪問を通して交流を行うこと、また、モンゴルの病院、孤児院を訪問し、モンゴルの福祉状況を学ぶことだ。

日本語を学んでいる学生との交流は、非常に有意義なものとなった。モンゴルのこと、日本のこと、お互いがお互いの文化や関心について多くのことについて話した。日本語を学んでいる学生の中には日本に来たことのある学生が多くいた。日本について知っている学生もあまり知らない学生も、日本に興味があり、好きだと言ってくれたことが非常に嬉しかった。私たちがモンゴルについて知りたいと思うと同時に、私たちは自分たちの生活している町、国について今よりも知っておく必要があるのだと感じる交流となった。

病院と孤児院への訪問は、多くのことを考えさせられた。事前学習で、モンゴルでの医療や福祉はあまり発達していないということだけは知っていた。しかし、自分の目で確かめることで、実際の状況に驚かされる一面もあった。その現実はモンゴルが発展途上国であるということに改めて気づかされ、また日本との考えかたの違い、文化の違いというものを感じるものだった。

この研修は、モンゴルについて知ることができ、多くの友達と出会い思い出をつくることができた。しかし、私たちは楽しかったという思い出だけで終わらしてはいけないのだ。モンゴルは昔に比べて発達してきていることは確かである。都市であるウランバートルにはきれいな建物やホテル、ショッピングセンターなどがあった。しかしその反面、マンホールで暮らす子どもや大人、スリが多い街中、舗装されていない道路などもある。このような現実もあるということを私たちは知っておく必要があると思うのだ。

だからといって、悪いところだけ、良いとこをだけを外から見ていくのでない。豊かな自然、発達している都市、これらすべてが今のモンゴルなのである。私たちは自分たちの目でモンゴルを見ることができ、多くのことを体験し考えることができた。

この研修をきっかけに、日本とモンゴルとの交流がより深いものとなり、お互いがお互いに多くのことを吸収していけるようになって欲しい。そのためにも、私たちは自分たちが感じたモンゴルを多くの人に伝えていきたいと思う。

スウェーデン・デンマーク・イギリス社会福祉視察

３年　川崎　綾乃・高田　真衣・高橋　美穂・高見　沙希・
中川内　さおり・福田　真理・松平　幸恵・山本　真安葉

日程

３月１９日	成田空港からデンマーク・コペンハーゲンへ
２０日	障がい児のためのグレンタン保育園（Glantans forskola）訪問 スウェーデンの福祉制度セミナー 高齢者住居訪問（Faladshojden 老人ホーム） 市内散策後、地元の学生と夕食交流
２１日	コペンハーゲン市・社会福祉レクチャー コペンハーゲン市社会福祉委員　AnnVivi Wessel 女史 主にデンマークの高齢者福祉サービスについて講義
２２日	コペンハーゲン市内の老人ホーム訪問（Rundskuedagens Plejecenter） 市郊外の補助器具センター訪問
２３日	空路、ロンドンへ
２４日	ブレイントリー市で高齢者住居、緊急通報センター、緊急介入チーム、レジデンシャルホームを訪問 病院での退院調整会議に参加
２５～２７日	自由行動
２８日	空路、コペンハーゲンへ　空路、成田へ
２９日	成田空港到着

私たちは３月１９日～２９日までの１１日間、長澤先生を始め池さん（高知女子大学大学院）、篠原さん（同学部４回生）、３回生８名の計１１名でスウェーデン・デンマーク・イギリスの社会福祉を視察しました。

私たちがこの社会福祉視察に参加するきっかけとなったのは、１階掲示板に貼り出されていたＡ４の１枚の募集からです。冬季休業が終わるのとほぼ同時にこの募集がありました。この頃から準備を始め、週１回、計４回の勉強会で文献やビデオを中心に勉強しました。そして、分担しながら各都市の下調べやお土産等、視察に向けた準備を整え、ヨーロッパに出発しました。

視察場所では入園者、入居者が生活する部屋の中まで見せていただき、写真撮影や質問にも快く応じて下さいました。

施設訪問や社会福祉レクチャーでは、日本と社会福祉先進国の考え方の違いに多く気づきました。例えば、社会福祉先進国のスウェーデンやデンマーク、イギリスの考え方は、「すべての人は、

みんな自宅で暮らしたいと思っている。だから、できるだけ自宅で生活できるように支援する。」というものですが、日本は自宅で生活したくても資源（在宅福祉サービス）の不足から在宅生活に戻そうとしておらず、社会的入院に繋がっています。これが日本と今回視察した福祉先進国との違いだと強く感じたことです。

それからスウェーデンやデンマークでは、‘税金を国に取られる’のではなく、‘国に預ける’という感覚だということです。これは、社会福祉の制度やサービスことを行政が勝手に決めるのではなく、地域住民で話し合い、決めていくことが浸透しているからではないでしょうか。

今回の視察は、私たちにとってとても良い刺激になりました。この１１日間で得た知識、経験をこれから活かしていこうと思います。

現地では天気に恵まれない日もありましたが、スウェーデン・デンマークの通訳の方々や長澤先生のお蔭で、何事もなく無事日本に帰ってくることができました。ありがとうございました。

ＯＤＡ民間モニターに参加して

５期生（06 年３月卒）　山田　麻以

私は昨年、ODA の民間モニターとして、エジプトに対する日本の ODA を視察しました。ODA 民間モニターの制度は、日本の ODA の現状を様々な立場の人に広く知られる事を目的とするもので、二十歳以上であれば誰でも応募できます。私は、地球の大部分を占める開発途上国の現状に以前から興味があり、自分の目で見たいという思いがあったことから、この制度に応募しました。国際関係についての私の知識は無いに等しく、有意義な視察が出来るかどうか不安でしたが日本の ODA の仕組みや現状、またエジプトで実際に訪問する案件については、事前に東京で勉強会が開催され、そこで国際協力銀行（JBIC）や円借款、無償資金協力の現状や国際協力機構である JICA の協力体制などの知識を深めることができました。また、エジプトの日本大使館ではエジプトの概要、環境、対日関係についてもお話して頂けました。

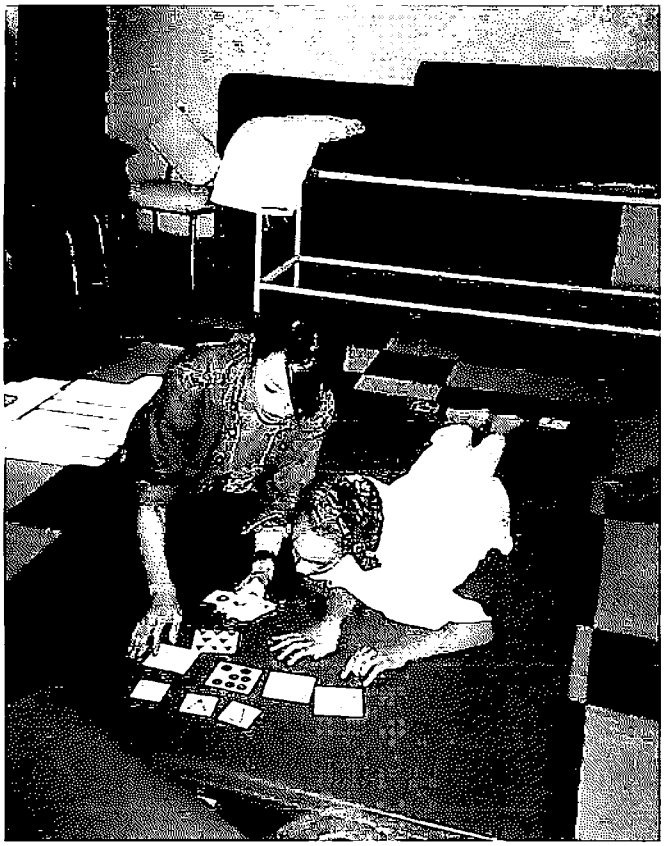
実際にエジプトで滞在したのは８月 20 日から 26 日までの期間で、無償資金協力で作られた上水道整備施設とカイロ小児病院、円借款協力では火力発電所、技術協力の農業用水の感慨システムの様子の４つの案件と、青年海外協力隊の活動を視察しました。雨の少ないエジプトにとって、生活に必要な水の整備は欠くことが出来ず、それは農業用水も同様で、パイプで水を通さなければ広範囲での農業が難しい。このようなエジプトの気候や環境を考慮した日本の援助は、現地の人にとても喜ばれ上手く作用していると感じました。

カイロ小児病院では日本の医療技術援助も行われ、さらにその技術が南南協力としてアフリカ大陸の他の国へ伝えられていることと、中東地域における質の高い病院として高い評価を受けているらしく、待合室にいた大勢の外来患者を見ることで益々この病院の必要性を感じました。しかし、病院にしては老朽化が目立ち日本の病院とは比べ物にならない程、薄汚れていて暗いと感じ、これが病院の中なのかとカルチャーショックを受けました。

福祉や社会保障が日本のように整っていないエジプトで、青年海外協力隊の作業療法やストリートチルドレンの保護施設での活動は、エジプトの福祉のお手本でもあると感じ現場での活動の重要性を改めて感じることができました。現場の活動は、日本人と現地のエジプト人の関係がよく分かり、隊員が活動するどの施設においても隊員の活動に敬意が捧げられていました。隊員とエジプト人の良好な関係をみて、現地レベルの地道な活動が国際援助の原点であると感じました。

ODA の援助といえば、政府間同士の大きなお金と大勢の人が動く援助であり、私たちにはあまりなじみの無いものだと思っていました。しかし実際に訪問し、その様子を見ることで、ODA は政府間同士が中心の援助ではあるが、現地で活動する人々によって援助がスタートし継続するという、人と人のつながりの連続で成り立っていると感じました。

最後に ODA は税金の無駄遣いだという批判がありますが、今後このような援助について多くの国民が意識を持てるように一層の広報活動に取り組むことに期待し、自分が出来ることをしていきたいと思っています。



青年海外協力隊の活動の様子（理学療法士）

青年海外協力隊の活動（保育士）

V

卒業論文題目一覧

（2005年度）

平成17社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

ゼミ担当教員	題　　目
川﨑　育郎	10代の人工妊娠中絶についての一考察 －高知県の相談機関における聞き取り調査より－
	小学校高学年の友人関係についての一考察 －高知県の小学校担任の視点から－
	情緒障害児短期治療施設の入所対象児の歴史的変遷について －全国情緒障害児短期治療施設の動向と津島児童学院の事例から－
	学童保育を卒会した障害のある子どもの放課後保障の現状と課題 ～高知県における聞き取り調査を通して～
	父子家庭への子育て支援についての一考察
	子育てサークルに参加することによる母親の育児に対する不安軽減についての一考察 ～高知市の子育てサークルでのアンケート調査を通して～
	自閉症のある子どもの養護学校卒業後における就労についての一考察 ～高知県における聞き取りをもとにして～
	児童養護施設退所児童への援助（アフターケア）の現状と課題 －高知県における児童養護施設職員への聞き取りを通して－
	集団遊びに対する好き・嫌いの意識と友人関係の広さの関係についての一考察 ～小学校4・5年生を対象としたアンケート調査を中心に～
	性非行問題の支援に関する一考察 －高知県における聞き取り調査を中心に－
	児童養護施設に入所している被虐待児に対する心的ケアについての一考察
	自閉症のある子どもの乳幼児期における養育者の主観的気づきに関する一考察 ～養育者の主観的気づきと自閉症初期診断の特徴との比較を通して～
住友　雄資	「失敗を保障する援助」に関する研究
玉里　恵美子	田内千鶴子と木浦共生園に対する高知県博愛園の児童養護実践の影響
長南　浩人	聴覚障害者の職場におけるコミュニケーションの満足感の研究
	聴覚障害児におけるコミュニケーション手段の使い分けに関する研究
	在宅生活を送っている肢体不自由者の住居環境の実態と日常生活との関連について ～ＱＯＬの視点から～
	中途視覚障害者における障害受容の過程に関する研究
	知的障害児の生活行動の発達に関する研究 ～子ども同士のかかわりを中心に～
長澤　紀美子	特別養護老人ホームに入所している高齢者と子どもとの日常的な交流に関する考察 －特別養護老人ホーム施設長・職員の意識と交流の実態－
	福祉レクリエーション・ワーカーの援助内容に関する一考察 －利用者主体の援助方法と望ましい福祉レクリエーション・ワーカーの条件－
	妊娠から育児期にある女性が働きやすい職場環境・条件に関する一考察 －児童養護施設で働く女性への出産・育児に関する聞き取り調査より－
	中山間地域における老老介護 －サービス利用に消極的な老老介護世帯に対する支援のあり方－
	特別養護老人ホームにおいてターミナルケアを積極的に進めていくための方策 －ターミナルケア実施施設の課題への対応から－
	ジョブコーチによるフェイディング決定要素に関する一考察 ～知的障害者の一般就労について～
	介護者セルフヘルプグループの機能に関する一考察 －家族介護者のエンパワメントに向けて－
	高知県における里親への支援の支援の内容とその課題 ～里親制度に対する行政・福祉施設と里親との期待のギャップを通して～
	明治から大正中期にかけての母性保護論争の起こりとその経緯 ～三人の論者と論旨を中心に～

平成17社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

ゼミ担当教員	題　　目
西内　章	知的障害者の結婚生活に必要な要素の研究 －「生活の質」の視点から－
	飲食店で働くアルバイト・パートタイマーに対する育児休業制度の現状と課題
	高齢者就労におけるＪＡ南国市かざぐるま市の現状と課題
	不妊女性の悩みとその対応について －Ｚ県における不妊相談センターと保健所の聞き取り調査から－
	X市内の特別養護老人ホームにおけるおむつ介助の方法比較
	在宅ターミナルにおけるケアマネージャーの役割に関する一考察
	精神障害者の地域生活支援における「仲間づくり」に関する一考察
宮上　多加子	高齢者に対する介護予防支援 ～K市の事例を通して～
	認知証高齢者ケアにおける施設環境の意義 ～物理的環境に着目して～
	高齢者死別後の高齢者に対する近隣住民の役割 －池川町の事例から－
	社会福祉士の卒後研修の現状と課題 －職能団体の役割を中心に－
	災害時に備えた高齢者への支援 －地域における自主防災組織を事例として－
	高齢者と子どもをつなぐ支援 －交流を支援するスタッフの役割と支援のあり方－
	高齢者虐待を起こす要因と発生予防 ～生活援助を中心として～
	高齢者における就業機会の確保への取り組みについて ～K市シルバー人材センターの聞き取り調査より～

編集後記

社会福祉学部報第８号をお届けします。

昨年度は、31 年の長きにわたって高知女子大学および大学院の発展にご尽力されました松田眞一教授をはじめ、栗田明良教授、長南浩人講師、斉藤征人助手が退職されました。それぞれの先生方の新しい赴任地でのご活躍と、ご健康を心からお祈りしています。

このように教員の交代はありましたが、学部創設以来蓄積されてきた教育や社会的活動は、入学志願者の状況、学生たちの多様で活発な活動、卒業研究、国家試験への取り組みとその成果というように、様々な段階において着実に結実しているように思います。詳細は、どうぞ紙面でご確認ください。

編　集　宮上　多加子

高知女子大学社会福祉学部報

第８号

発行日　2006 年　7 月 14 日
発行者　前山　智（学部長）
編　集　宮上　多加子
　　太田　こずえ

表紙挿絵　八木　明日香（3 年）

高知女子大学社会福祉学部
住　所　〒781-0111　高知市池 2751-1
TEL　088-847-8700（代　表）
FAX　088-847-8672（学部専用）

印刷・製本　西富謄写堂